2007.3

HAMAMATSU UNIVERSITY SCHOOL OF MEDICINE

NEWSLETTER



(新病棟完成イメージ図)

国立大党法人

浜松医科大学 http://www.hama-med.ac.jp

Vol.33 No.2

目 次

X	1	ン	テ -	- マ							
	医大保育	所きら	5 b ···		人事課長	原	田	英-	-郎·		1
新	任 職	員	の i	紹介							
					脳神経外科学講座助教授	杉	山	憲	嗣·		2
					基礎看護学講座助教授	宮	島	多時	央子·		3
海夕	医学・医	療事情	Ė.								
	デンマー	クでの)研究生	活	·····皮膚科学講座助教授	橋	爪	秀	夫·		4
	精神医学	領域の)国際学	会に参加	口して						
					・・ 子どものこころの発達研究センター	吉	橋	由	香·		5
大	学	=	ュ -	- ス							
	一般ニュ	ース									6
	平成 18年	F度(2	第 28 回)	浜松医	科大学公開講座 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						7
	学生ニュ	ース								••	11
	サークル	紹介								;	12
	(剣)	道部、	ゴルフ音	阝、邦楽	部、管弦楽団)						
	留学生紹	介 …								•• :	16
	(王	į	春霞、	劉	紅 明)						
さ		ろ		h							
	浜松医科	大学棒	構内の植	物 …	· · · · · · 病理学第二講座技術専門職員	宮	崎	_	夫 ·	••	19
	$\lceil YS - 11 \rceil$	L」搭剰	触:…		·····総務部総務課長補佐	伊	藤	邦	司 ·	;	32
海	外	渡	航	記							
	インドへ	の旅、	そして	インドカ	いらの旅						
					· · · · 総合人間科学講座(倫理学)教授	森	下	直	貴·	;	34
	アメリカ				·····健康社会医学講座助手	村	田	千作	· 栄力	;	38
卒	業	生	だ。	と り							
					医学科 9 期生(昭和 63 年 3 月卒業)	中	村	直	也.	•••	40
					医学科 9 期生(昭和 63 年 3 月卒業)	小	林	麻	子·	,	41
					医学科 9 期生(昭和 63 年 3 月卒業)	服	部	智	司 ·		42
編	集		後	記							

国大保育原きらり:

総務部人事課長 原 田 英一郎

平成19年度から、本学に「医大保育所きらり」が誕生します。学内公募された施設名(応募総数89件)のなかから、子供たちが「きらり」と輝いているという意味と、本学の特徴である「光」のイメージから命名されました。

ここに至るまでの経緯は決して平坦なものではありませんでした。検討を開始した2年前には様々な制約から「小さな」施設で検討していましたが、その後、平成18年度になって、予算的な目処もたち、建物は新築、運営も保育事業運営会社への委託という形態で設置することを大学として決定しました。背景には、大学全体における有形無形の経営努力をはじめ、(財)21世紀職業財団の助成金の認定がとれたことのほか、次世代育成支援に対する機運及びニーズの高まりなどがあります。

さて、「きらり」について説明します。場所は、 半田山会館の北西隣で、木造平屋の述べ床面積 196㎡、園庭面積150㎡の広さです。定員は20名 で年齢構成は柔軟に対応します。利用できるのは 本学の全職員で、生後9週目から小学校就学前ま での子供が対象です。基本保育は、月曜から土曜 の7:30~18:30(祝・休日、年末年始を除く)で、 オプションとして、早朝6:30~7:30、延長18:30~ 20:30、一時7:30~18:30(空きがある場合)を設 定しています。保育料金は、基本保育が、44,000 円(3歳児未満)、32,000円(3歳児以上)で給食 費を含み2人目以降は半額となり、オプションは、 早朝200円/回、延長400円/回、一時3,000円/ 回となっています。なお、入所時に入所料30,000 円が必要になります。

運営は、学内保育所や院内保育所など約70園の 運営実績のある(株)サクセスアカデミーに決ま りました。その他、セキュリティ装置の設置、送 迎用停車スペースの確保、発熱時の対応、給食と おやつの用意、粉ミルク及び母乳の対応、原則勤 務終了までの保育などを準備しています。

ところで、建物の完成時期が、当初の入札が不成立に終わった関係で、一ヶ月ほど遅れる見込みです。この点は、利用者の方に申し訳ないと思うのですが、そこで、4月の一月間だけは、半田山会館内に仮設の保育室を用意して、子供たちを受け入れる準備を進めています。仮設とはいえ、運営は、(株)サクセスアカデミーが十分な安全上の配慮の上で行います。そして、5月からは新しい建物に移って正式な運営を開始する予定にしています。

この原稿が印刷されるころには、既に入所者の 募集も行われていることと思います。多くの職員 の方々に御利用いただきたいと思いますので、御 検討くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、冒頭で紹介しました「きらり」の名称選 定に関して、結果的に無記名の応募であったため、 看護師さんからの応募名称ということ以外は発表 することができないことを申し添えます。

最後になりましたが、保育所の制度設計にあたり、様々な御協力をいただいた「保育所設置ワーキンググループ」の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

さあ、子供たちの元気な声が聞こえてくるのも もうすぐです。



新任職員の紹介

脳外・科から脳・外科へ、 破壊から修飾、再生へ。

脳神経外科学講座助教授 杉 山 憲 嗣

この度、2006年11月1日をもちまして脳神経外科学講座の助教授を拝命いたしました。

私の生まれ育ちは静岡市で大学は秋田大学の出 身です。本学では第二内科千田金吾先生の秋田大 学での一年後輩に当たります。昭和55年大学卒業 と共に浜松医科大学の脳神経外科へ入局し、本学 の第1期生の先生方と一緒に、植村前教授を始め 諸先生から、厳しく、しかし楽しい脳外科の研修 を受け、現在に到っております。私の専門分野は 機能的脳神経外科で、不随意運動、頑痛症などの 外科治療と、術中、周術期の電気生理モニタリン グを受け持っています。同級生から、「植村教授の 直系の最後の弟子はお前だ。というのも、お前が 最も頻繁に、本当にしょっちゅう植村先生から叱 られていたから。| との評価(?)を頂いておりま す。しかし、植村先生の学識には、電気生理方面 だけでもとても及ばず、直系の、ではなく不肖の 弟子だと思っています。

研修医として外の病院で働いているときに、オーベンの先生(今の言葉で言うと直属した指導医)に、「いいか。脳外科というのは、腫瘍にしても血管障害にしても、脳をなるべく触らず、痛めず、脳の外で仕事が出来ればこれが一番うまい医者なのだ。脳に再建はありえない。脳を縫ったなんて聞いたことないだろう。脳の外を扱うから『脳外・科』というのだ。」と教わりました。私はこれを聞いて、強烈に、そんなのつまらない、と思いました。もともと、私の祖母が脳動脈瘤破裂で亡くなったのがひとつのきっかけではありましたが、私が脳外科を選んだ他の一つの理由は、脳がどのような仕組みになっているのかを知りたい、そしてそれを生かして患者の治療をしたい、というものでしたから。

これも研修医の時、一般外科の研修を東部の病院でさせていただきました。私は最も下っ端の医者で、大事なオペ患者の管理責任は、むろん外科の研修医が取ることになっていましたが、私は末期癌の病棟で患者管理を任せられました。この時、



診た癌性疼痛の患者さん達の苦しみに、こんな事が人間の誰にもあってはならない、と憤慨し、なかばはこの患者さん達の苦しみに対するリベンジのつもりで疼痛の中枢機序の研究を始めました。 浜松医大の脳外科はもともと頑痛症や不随意運動を扱っている機能的脳外科のグループが有りました。 私が吸い寄せられるように機能的脳外科を専門とするようになったのも、あれこれ考えますと 至極当然の成り行きであったのかもしれません。

私が定位脳手術を教わり始めた頃は、凝固術し か有りませんでしたが、その後、脳深部刺激療法 が開発され、脳表はもちろん、脳深部の各所に電 気刺激による修飾を加えて興奮、抑制の両方向の 修飾が出来るようになりました。現在は不随意運 動、頑痛症に対する脳刺激療法が主に行われてい ますが、その対象疾患は精神疾患や高次脳機能疾 患にまで拡大しつつあります。さらに脳の修飾方 法も、神経伝達物質、神経栄養因子などの生化学 的修飾、そして遺伝子的修飾が視野の中に入るよ うになってきました。そして脳梗塞や脊髄損傷等 の破壊病変に対しても神経自体の再生を目指す幹 細胞療法と、ヒトー工学インターフェースを使用 するサイボーグ医療の両面からのアプローチがさ れ始めています。脳外科医達が、「我々は、脳自体 の修飾、再生を扱う『脳・外科医』なのだ」、と胸 を張って言える目も近いのではないかと思ってお ります。

昨今、浜松医大の脳神経外科教室は、社会的逆風の中、教室員の減少など、若干破壊術を受けた後のような状況になっておりますが、難波教授の御指導の基に、教室員と共に我々の教室を修飾し、再生に導くのも機能的脳外科医である私の責務の一つと考えています。

皆様どうかよろしくご指導、ご鞭撻の程、お願 い申し上げます。

基礎看護学講座助教授

宮 島 多映子

本年度11月1日付で基礎看護学講座助教授を拝命いたしました宮島多映子と申します。「たえこ」を変換しますと、「多恵子」、「妙子」というような字が出てまいります。私の名前は、たまたま生まれた日の新聞に載っていた小説家「平林たい子」から「たえこ」となり、夕映えの夕日をふたつにしたらさぞかし美しいだろうと考えたロマンチックな母がつけた名前です。結婚して「宮島(安芸の宮島と同じ)」となり、海に浮かぶ大鳥居に、夕日が二つという光景が私の名前です。

さて、私が赴任しました基礎看護学講座というところはどのようなところかと申しますと、何分「基礎」なので、看護のすべての元になるものを教える講座です。つまり、「看護とは何ぞや」という哲学的思考から、血圧の測り方、注射の仕方などなどの実践方法、国内外の看護界の動向から、厚生労働省の動き、大学生活における自主性など、ありとあらゆることを「学生が自分で学ぶ」ということを教えるところです。

昨今の学生は「答えがひとつであること」を重視した教育を受けています。大学入試は大半が、「黒く塗りつぶすたった一つの答えの探索」であり、成績として数字で、しかも比較的短期間に必ず結果が出ます。しかし、看護はほとんどが数値で表せない効果を持っています。「患者をいかに上手に体位変換したか」には点数などありません。不幸にも亡くなった患者さんの気持ちが、真実どのようなものであったのかは、永遠にわからないこともあります。また、一人の患者さんに良かったことが、次の患者さんに必ずしも良いかどうかはわかりません。一人一人の人間は、それぞれか



けがえのない再現性のない尊い存在です。このため、「看護は常に発展していくこと」、「教科書の内容だけではよい看護はできないこと」を伝えることに日々努力しています。

学生に「わかりにくい、難しい、常に答えがひとつではない」特性を持った「看護」をいかに「楽しく」、「面白おかしく」教え、「難しいけれど看護ってすごいなあ」という言葉を実感してもらうために日々努力をしています。

さらに看護は人間を対象とするため、すべての 学問が必要です。「学問は人間を幸福にする知識の 体系」ですから。看護は看護するその人がいかに 「学問を学んだか」が重要です。学問と言っても、 机の上に本を広げてと言うばかりではありません。 映画を観たり、漫画を読んだり、旅行に行ったり。 いわゆる勉強だけでなく、感性を豊かにすること も大切なことです。このため、できるだけ、多く の学問(さまざまな事象)に触れたいと思ってい ます。

前任校は山梨大学で、医学部・工学部・看護学部と連携して運動機器の開発をして特許を申請したり、内視鏡技師であることを生かして内視鏡の先生方と内視鏡看護を検討したり、看護技術の生理学的検証を行ったりしました。今後も学際領域を含めた研究と教育を行いたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

颁外医学。医照职册

デンマークでの研究生活

皮膚科学講座助教授 橋 爪 秀 夫

私は現在、Arhus大学皮膚科Thestrup-Pedersen 先生から招聘をうけて、コペンハーゲンにある Rigshospitalet Allergilab に籍をおいている。恥ず かしながら、これまでデンマークという国につい て何の知識も持ち合わせていない。実は、今でも この国の医療の実情をよく知らない。医学部付属 病院所属といっても、別棟にある研究所とアパー トの往復の毎日で、病院はその前を素通りするだ けなのだ。しかも、幸い病気もせず元気に過ごし ている。だから、本稿は上司や知り合いの皮膚科 医からの聞いた話の総括である。ご容赦願いたい。

最初に、医師数について触れておこう。デンマーク国内には、大学が5つで、そのうち医学部は3大学しかない。人口500万の小国であるが、それでも医師は日本と比べ圧倒的に少ない。日本では一万人程度いる皮膚科専門医は、わずか70名だ。教育費はすべて只であるばかりか、大学生は国から給料が支給される。経済事情に左右されないため、医学部を卒業することは、真のエリートを意味する。話は反れるが、恩恵を享受できるかわりに、税金が異常に高い。収入に対する税金は、50-60%であるし、消費税は25%である。自動車税は200%なので、自転車が国民の足となっている。

3ヶ月以上定住するものは、市役所(コミュン)で住民登録が義務づけられている。その際に、主治医(GP: general physician)を決める。GP は地域ごとの縄張りがある。私はこのことを全く知らず、職員に男か女かと唐突に尋ねられて、狼狽してしまった。医師は GP と開業専門医、中規模病院および大学病院の専門医に分けられる。大学病院は規模、設備ともに優れる。患者はまず GP を受診し、専門医受診が必要と判断されると、紹介

状をもらう。患者は、外来治療が可能なら開業専門医へ、入院が必要な患者は大学および中規模病院、癌は癌専門病院へと、専門性や重症度によって、振り分けられる。救急医療は、殆ど大学病院が受け持つ。医療費は税金から賄われすべて無料で、日本のように病院収益を考える必要はない。予約診療制のため、医師は時間を気にせず医療に専心できるメリットがある。医師としては羨ましい環境だ。医療費無料のために徹底した節約が行われている。中規模病院でさえ、CT などの "高額な"機器はないらしい。今の日本に、同じ事ができるかといえば、無理に違いない。デンマークという小国だから実現可能な医療制度であろう。

同僚が、膝を痛めて具合が悪そうなのに、一向に医療機関にかかろうとしない。無料なのに何故だときくと、GPから整形外科への紹介してもらうまでが大変だから、という。確かに、何度か大学病院内を歩いた時にも、日本のように診察を待つ患者の列はみられなかった。患者と医療との距離感が遠くさせておいて、無料医療制とのバランスをとっているのだと穿った見方をしてしまう私は、日本の医療のやり方に毒されてしまっているからだろうか。



デンマーク皮膚科学会が行われた ビシュペビャー病院

精神医学領域の国際学会に参加して

子どものこころの発達研究センター

吉 橋 由 香

2006年9月10日から14日に、オーストラリアのメルボルンにて、「17th World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (詳しくはhttp://www.iacapap2006.com/)」が開催されました。この学会は、児童期・青年期における問題を幅広く議論する学会で、多くのポスターセッションと口頭発表が行われました。プログラムを振り返ってみますと、特に発達障害に関する内容のものが多かったように思われます。日本国内でも、特別支援教育がスタートするなど、以前に比べ発達障害への関心と意識が高まり、研究も盛んになってきていますが、これはどの国においても共通のことなのだということをあらためて感じました。

子どものこころの発達研究センターは、浜松医科大学と大阪大学の連携で2006年4月に新設されました。本センターでは、広汎性発達障害やADHD等の発達障害に注目し、遺伝子研究ほか生物学的な基礎研究から、心理・教育的介入方法の開発まで行っていくことを目標にしています。発達障害については、いまだ科学的なメカニズムが解明されていない状態です。また、心理・教育的介入についても同じで、これから開拓されることになる領域です。これまで、科学的研究と心理・教育的介入の開発はそれぞれ別個に行われることが多かったのですが、これを一貫したビジョンで捕らえ、多面的かつ知見を相互に活かしながら研究開発されることはとても画期的なことです。

今回国際学会に参加し、海外から振り返る機会をいただき、そのコンセプトがいかに重要であるかを再確認し、また当センターで行っている研究がいかに最先端のものであるかということに気づかされました。言葉の壁こそありますが、今後研究が進められ得られていく知見を、視野を広く持って日本国内だけではなく、海外にも還元していく必要性を痛感しました。

また、発表内容は、発達障害以外にも、児童・ 思春期の精神疾患、エイズ問題、戦争孤児の問題 …多くの演題が掲げられていました。日本の国内 学会では、なかなか勉強できないような内容のも のも多く、非常に興味深い5日間でした。

このような研修の機会を与えてくださいました 諸先生方、ありがとうございました。







大学ニュース

一般ニュース (9月1日~2月28日)

平成 18年

9月9日 平成18年度厚生補導担当者研究会

9月15日 前期授業終了

10月2日 医学科第2年次後学期編入学入学式が行われ4名が入学した。 大学院医学系研究科博士課程10月入学、入学式が行われ1名が入学した。 後期授業開始

10月 26日 「第 6回 慶北―浜松合同医学シンポジウム」交流事業開催 29日

11月21日 平成18年度外国人留学生実地見学旅行(長野) 22日

平成 19年

2月28日 国際交流のつどい



第6回慶北・浜松合同医学シンポジウム



国際交流のつどい



外国人留学生実地見学旅行(長野・松本城)

平成18年度(第28回)浜松医科大学公開講座

下記の要領で18年度の公開講座が実施されました。

本学の公開講座は昭和54年から毎年開催しており、今年で28回目を迎えました。開催の趣旨は、「本学における教育・研究の成果を広く社会に公開し、開かれた大学として地域の皆様との率直な意見交換の場を設ける、併せて正しい保健衛生思想の普及と地域文化の発展に寄与する」です。

前回(第27回)「わかりやすい○○病の話」が大変好評だったので今回もその続編として総合テーマを「続・わかりやすい○○病の話」としました。今回の○○病は乳がん、骨粗しょう症、肝臓病、血液の病気、腎臓病、難聴、大腸がんなど多岐にわたるものでした。去年取り上げた病気を加えると、普通の家庭医学の本の6-7割ほどの内容をお話することができました。

テーマ 「続・わかりやすい ○ ○ 病の話 |

会 場 浜松医科大学講義実習棟(1階)特別講義室

対 象 社会人、学生

申込者数 166 名

修了証書授与者数 150 名 (90.4%)

3回以上受講された方に授与

内容

	14:00 ~ 16:00						
7月22日 (土)	わかりやすい乳がんの話	わかりやすい骨粗しょう症の話					
7月22日(上)	乳腺外科 小倉 廣之 助手	整形外科 山崎 薫 助教授					
7月29日(土)	わかりやすい肝臓病の話	わかりやすい血液の病気の話					
7月29日(上)	肝臓内科 小林 良正 助手	化学療法部 大西 一功 教授					
	わかりやすい腎臓病の話	わかりやすい古くて新しいお産の話					
8月 5日 (土)	腎臓内科 菱田 明 教授	周産母子センター 杉村 基 助教授					
0月10日 (上)	わかりやすい難聴の話	わかりやすい森田療法の話					
8月12日 (土)	耳鼻咽喉科 峯田 周幸 教授	精神科神経科 森 則夫 教授					
оносп (Д)	わかりやすい眼鏡の話	わかりやすい大腸がんの話					
8月26日(土)	眼科 佐藤 美保 助教授	下部消化管外科 中村 利夫 講師					



開講の挨拶をする市山理事



閉講の挨拶をする寺尾学長

☆アンケート集計結果☆

毎回、公開講座の最終回にアンケートを実施し、受講生のみなさまのご意見をいただいております。 今回は123人の受講者の方々にアンケートをご記入いただきました。受講者の方々のご希望に添えるような公開講座となるよう工夫・改善していきたいと考えています。

平成 18 年度浜松医科大学公開講座に関するアンケート集計結果

実施日 8月26日(最終日)

最終日受講者数 132人

回答者数 123人 (93.2%)

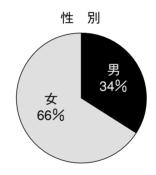
設問1:今までの受講回数

	数(人)	割合(%)
初めて	52	42%
2~3回	37	30%
4~9回	26	21%
10~15回	7	6%
16回以上	1	1%
合 計	123	100%

今までの受講回数 16回以上 1% 6% 4~9回 21% 2~3回 30%

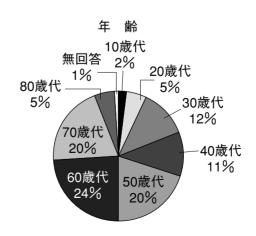
設問2:受講者の性別

	数(人)	割合(%)
男	42	34%
女	81	66%
合 計	123	100%



設問3:受講者の年齢

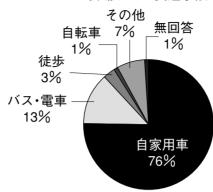
	数(人)	割合(%)
10歳代	2	2%
20歳代	6	5%
30歳代	15	12%
40歳代	13	11%
50歳代	25	20%
60歳代	30	24%
70歳代	25	20%
80歳代	6	5%
無回答	1	1%
合 計	123	100%



設問4:会場までの交通手段

	数(人)	割合(%)
自家用車	93	76%
バス・電車	16	13%
徒歩	4	3%
自転車	1	1%
その他	8	7%
無回答	1	1%
合 計	123	100%

会場までの交通手段

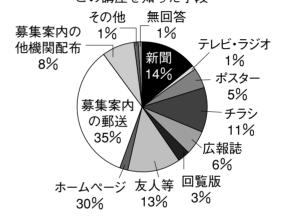


設問5:この講座を何により知りましたか?

	数(人)	割合(%)
新聞	20	14%
テレビ・ラジオ	1	1%
ポスター	7	5%
チラシ	16	11%
広報誌	8	6%
回覧版	4	3%
友人等	18	13%
ホームページ	3	2%
募集案内の郵送	48	34%
募集案内の他機関配付	11	8%
その他	2	1%
無回答	2	1%
合 計	140	100%

(複数回答あり)

この講座を知った手段





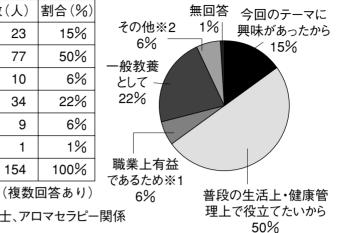
眼科佐藤助教授の講座



熱心に受講する受講生

設問6:受講の動機は何ですか?

	数(人)	割合(%)
今回のテーマに興味があったから	23	15%
普段の生活上・健康管理上で役立てたいから	77	50%
職業上有益であるため ※1	10	6%
一般教養として	34	22%
その他 ※2	9	6%
無回答	1	1%
合 計	154	100%



受講動機

※1の職業:看護師4、保健師2、薬剤師、歯科衛生士、アロマセラピー関係

※2の内訳(自由記述):

なんとなく(10代、女性)

大学が好き(40代、女性)

人体に興味があるので(30代、女性)

知っている先生がお話されるので(30代、女性)

最先端の医療の情報を知りたいため(70代、女性)(50代、女性)

施設入居者の方の生涯学習の一環(30代、女性)

インド伝承医学アーユルヴェーダ勉強中のため(50代、女性)

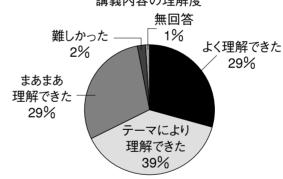
自宅で脳梗塞の父(90歳)を24時間体制で看護介護しているので

新しい知識を学ぶため(50代、女性)

設問7:講義内容は理解できましたか?

	数(人)	割合(%)
よく理解できた	36	29%
テーマにより理解できた	47	38%
まあまあ理解できた	36	29%
難しかった	3	2%
無回答	1	1%
合 計	123	100%

講義内容の理解度

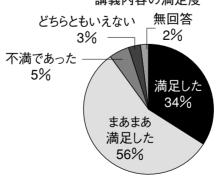


設問8:講義内容に満足できましたか?

	数(人)	割合(%)
満足した	42	34%
まあまあ満足した	70	56%
不満であった	6	5%
どちらともいえない	4	3%
無回答	3	2%
合 計	125	100%

(複数回答あり)

講義内容の満足度



学生ニュース (9月1日~2月28日)

平成 18 年

10月24日 スポーツを通した留学生の交流・交歓の集い(静岡大学体育館)

11月18日 学生サークル「管弦楽団」が静岡県青少年健全育成に係る顕彰表彰

サークル紹介

〔剣道部〕

こんにちは、剣道部です。現在、8名の部員で活動をしています。普段は週2回、試合前は週3回の練習を行っています。部員ひとりひとりが自分の目標を持ち、その目標に向かって練習に励んでいます。

剣道部は年約4回の試合に参加しています。それらの試合に向けて、また定期的に開かれる段審査会に向けて日々練習を行っています。通常は自分たちで考えた練習法で、お互いアドバイスをしながら切磋琢磨しています。時には、師範の先生を招いて厳しく稽古をつけていただくこともありますし、近くの道場での練習に参加させてもらう事もあります。こうした結果を通じて、すこしでもよい剣道ができように日々努力をしています。また、滋賀医科大学との定期戦をはじめとし、さまざまな大学の学生と交流をもつ中で多くの人と練習をすることもあります。部員数が少ないので、こうした交流は一層大切なものになっています。

剣道は礼儀を重んじます。これは武士の精神を表した五常(仁義礼知心)のうち、礼が伝統的に受け継がれたものと考えられています。剣道を通じて技術だけではなく、正しい礼法を身につけることも剣道の目標です。

剣道は1対1の個人的名競争ともとれるかも知れません。しかし、団体戦をみていただくと、そこにはチームの団結力が欠かせない事がはっきりわかると思います。団結力があるからこそ勝った時の喜びが大きく感じられるのだと思います。剣道部は練習以外にも、花見に行ったり、川でバーベキューをしたりして楽しい思い出をたくさんつくっています。様々なイベントを通じて、部員の団結力が高まって行くような気がします。

さて、最近武道館の改修工事が行われ、無事終 了しました。工事の間は思うように活動ができな い状態にありましたが、今は新しい環境の中で剣 道ができる事の幸せを感じています。

もうすぐ試合の多い季節が近づいています、よい結果が出せるように、目標に向かって頑張りたいと思います。



(ゴルフ部)

『おじさんのスポーツ』なんてイメージに付きまとわれていたゴルフ部ですが、片山晋呉や宮里藍の人気にあやかってか、現在では在籍部員数54名のとても大きな部活になりました。

和合ゴルフクラブさんでの週2回の練習に加え、 自主練習や朝練習に励む部員も多く、自主性の強い部活です。先輩は練習中いつも後輩に目を配り、 後輩は先輩に憧れ、いつも刺激しあえる関係が築かれています。このような熱心な練習の結果として、2006年では西医体団体4位、個人7位入賞、また関西医歯薬新人戦でも団体3位入賞と輝かしい成績を収めることができました。

OB戦では多くの先生方にご参加いただき、OB 対現役の対抗戦を行っています。先生方はいつも 余裕のあるゴルフをされるため、現役チームは毎 回苦戦を強いられています。先生方に成長した姿を見て頂けることは部員にとって貴重な機会であり、OB戦の前にはいつも以上に練習に気合が入ります。

年3回、葛城ゴルフ倶楽部さんのご好意で合宿をさせて頂いています。いつもとは違うテクニカルなコースに、部員それぞれの課題を見つけることができ、さらなる実力アップのための素晴らしい機会となっています。

滋賀医科大学ともとても仲がよく、交流戦は本 当に楽しみな行事です。それぞれにライバルがい て、一年間の成長を見せるべく毎年熱い試合が行 われます。去年は一打差で負けてしまいましたが、 緊迫した接戦に終わった後も部員たちは興奮冷め やらぬ様子でした。

ゴルフ以外にも海水浴、スキー、ボーリングな どみんなで楽しむイベントもたくさんあります。



楽しい時間を共有することでまた部員同士の信頼 関係を強くすることができます。『例年やっている から』ではなく『今年はコレがしたい!』という ようにみんながやりたいことを自由に企画できる のがゴルフ部の特徴です。今年は一年生企画のイ ベントもあり、上級生はたくましくなった一年生 に胸がいっぱいになりました。

また、土日には豊岡国際カントリークラブさんでキャディーバイトをやらせていただいています。多くのお客様と接する中でゴルフマナーはもちろん、礼儀や言葉遣いなど様々なことを学ぶことができます。このように部活外の方と接する機会が多いのもゴルフ部ならではだと思います。キャディーを通して学んだことはゴルフだけでなく、学業や友人関係など様々なシチュエーションで役立つ知識となっています。

今、学内にゴルフ部の練習の場確保のため、学 務課の方々をはじめ多くの先生方にもお力添えを 頂いています。ゴルフ部の練習の場は、ぜひ多く の教職員の皆様にも一緒にゴルフを楽しんでいた だきたいと思っています。

このようにゴルフ部はゴルフができればそれでいい訳ではありません。もちろん恵まれた環境の中でゴルフができることはこの上ない幸いであり、ゴルフに熱心になることはとても大切なことです。しかしそれだけではなく、責任感を持つことやリーダーシップをとること、マナーを重んじることなど、社会に出るときに身につけておくべきものを得ることができる部活です。入部当初はそういった部分に硬さを感じる部員もいますが、それがポリクリ生になったとき、卒業して社会に出たとき生きてくることは確かです。これからも人間として成長していけるような部活動を行っていくことが私たち浜松医大ゴルフ部の目標です。



(邦楽部)

みなさん、こんにちは。邦楽部です。私たちは 和楽器、主にお琴を練習しています。部員は6名 でほとんどの者が運動部と掛け持ちをしており、 各自のペースで活動に参加しています。

在学生や先生方にもあまり存在をしられていない私たちではありますが、歴史は古く開学当初から活動しています。山田流吉本博輝先生に三十余年ご指導頂いており(先生は人間国宝故・中田博之氏の直門でいらっしゃいます)、週に一度という少ない時間ではありますが充実した活動をしています。

全くの初心者でも一月で「さくらさくら」、半年で「花影変奏曲」をマスターでき、毎回参加できる人は3年目には「六段」「千鳥の曲」といったメジャーどころも演奏できるようになります。みなさん、邦楽というと敷居が高いと感じられるかもしれませんが、邦楽部にはいればとても気軽に体験することができ、毎回上達を実感できます。

主な発表の場としては、医大祭の演奏会、留学 生の集い、学術交流などのレセプションパーティ などが挙げられます。いずれも自由参加ですが、 目標を持って練習すれば上達もはやく、人前で演 奏すれば度胸もつきます。また、ふだんあまり接 する機会のない留学生のみなさんや先生方ともお 話をすることができることも魅力です。

また、学外での活動として部員が吉本社中のみなさんと共に市民フェスティバルに参加することもあります。音響のよいホールで演奏するのは大変気持ちよく、また多くの参加者の本格的な演奏を聴くこともでき勉強になります。

スポーツなどと違って邦楽を趣味とする人は少なく、部員も「何部?」と尋ねられて「邦楽部」と答えると十中八九「法学?法律を勉強するサークル?」と返されるのですが、このような古くからある芸事に触れられるのは貴重な体験ですし、将来の生活や仕事に直接役にたつことはなくても心にある種の余裕が生まれるような気がします。

邦楽部ではお琴の他に三味線も練習できます。 また、経験者の方でも流派は問いません。楽器を 始めたい、日本の文化に興味があるという方は、 ぜひ邦楽部を選択肢に加えて下さい。部員一同、 お待ちしております。



(管弦楽団)

わたしたち浜松医科大学管弦楽団は、オーケストラを通して、音楽のよさを分かち合いながら活動しています。現在は、5月6日、アクトシティ浜松中ホールにておこなわれる、第27回定期演奏会に向けて練習に励んでいます。

毎年、夏と冬には、附属病院と遠州総合病院で コンサートを開催しています。クラシックだけで はなく、サザンオールスターズや宮崎映画、ディ ズニー映画の主題歌などのポップスも演奏しま す。また、医大祭では楽器の演奏とともに喫茶店 をひらき、毎年好評をいただいています。

団員は計63名で、大変個性豊かな人ばかりです。そして、興味深いことに、どの楽器をやっているかで、おおよそ性格も分かれるような気がします。つまり、同じ楽器の人同士は、性格も似ているということです(当然、例外はありますが…)。

練習熱心な団員が多く、部室からは朝から夜までひっきりなしに音が聞こえてきます。練習するにあたって、音程やリズムの正確さはもちろんのこと、音の強弱のつけ方、主旋律の歌い方にもこ

だわりを持つことを大切にしています。また、自 らの演奏技術の上達を目指すかたわら、CDを聞 いて、楽器間での主旋律の受け渡しや、伴奏と主 旋律とのバランスを確認します。まわりの音に 沿った上で、自分の音を表現するのです。

交響曲1つをとっても、そこには作曲者のある 時の心理状態、さらにはその人の人生が投影され ています。指揮者が違えば、同じ曲でもずいぶん と印象が変わってきます。もちろん、はじめは演 奏者間の曲の捉え方には若干のずれがあります。 作曲者の意図を前提とし、その上で、指揮者を中 心に、演奏者同士の捉え方のずれを解消していく。 その結果できあがった演奏は、気持ちのよいもの です。オーケストラは、個人の演奏技術が高いだ けではいい音楽はできません。それはわたしたち が将来、飛び込んでいく医療の現場でも同じこと がいえるのではないでしょうか。

わたしたちの活動を通して、多くの方々に、音楽、クラシックのよさをわかっていただければうれしいです。ぜひ、みなさんにもまわりに音楽がある生活を送っていただきたいと思っています。

たまにはクラシックを聞いてみるのはいかがですか?



● ● 留学生紹介



日本に来てよかった

まう しゅん か **王 春** 霞

私は中国からの留学生で、王 春霞 (おう しゅんか)と申します。2004年4月に浜松医科大学大学院博士課程(眼科学)に入学し、今年四年生になります。

私は中国遼寧省大連市の出身です。大学の六年間は同省の瀋陽市で過ごしました。2000年7月に中国医科大学の日本語コースを卒業した後、大学院の眼科学修士課程に進学しました。修士課程二年生の時には、金沢医科大学の眼科学教室で協力研究員として一年間滞在していました。2002年9月に一度帰国して修士課程を修了した後、浜松医科大学眼科の堀田喜裕教授のお計らいで日本国国費留学生に選抜され、2003年10月に浜松に来ることができました。現在は光量子医学研究センター(光環境医学研究分野)の蓑島伸生教授の研究室で分子遺伝学的見地から遺伝性眼疾患の研究を進めています。

大学時代から日本語の勉強を始めましたが、当 時は日本に行きたい為に志望したわけではありま せんでした。日本語コースを選んだ理由はただお 父さんの「英語以外に新しい外国語を身につけた 方がいいじゃないの?いつか役立つかもしれない から」という一言でした。そして、この一言がきっ かけとなり、現在の私につながっています。日本 語ができるようになったから、金沢医大へ行く チャンスをいただくことにつながり、滞在中に日 本が好きになったから、ぜひ日本で博士学位を取 ろうと思うようになったのです。

最初日本に来た時、特に印象に残ったのは、富山空港から金沢までの風景で、きれいでよく整備されている国だと感じたことです。この印象は浜松に来た時も変わりませんでした。大学をはじめ町村に至るまでとてもきれいに整っており、またパソコン設備や他の施設も充実していると思いま

した。そして大学の授業を聞いていて、中国には ない「セミナー」という特別な授業方式があるこ とを知りました。発表の機会が多く、先生方とも 親しくなれ、研究能力の向上にも役立つセミナー には多くの良いところがあると感じています。中 国の大学にもセミナーが必要だと考えています。

浜松に来てあっという間に3年が経ちました。 最初来た頃は既に金沢で1年過ごしたという海外 経験もあったので、来日するにあたって自分の中 に不安というものはちょっとしかありませんでし た。浜松医大の皆さんはとても親切なので、毎日 楽しく過ごしています。わからないことを丁寧に 教えてもらったり、困った時に相談にのってくれ たりして、身近の先生たちからもいろいろお世話 になっており、心から感謝いたします。

日本での研究生活の中で、日本人の仕事に対する真剣さと勤勉さ、しつけと礼儀正しさは私に深い印象を与えました。戦後、あっという間に日本が先進国のトップの座に躍り出たのも頷けます。

大学院の研究についての本格的な修練は、私の一生にとって大変重要な役割を果たすことになると思います。先進技術だけでなく、日本人の仕事への熱意、勤勉さにも心が打たれました。そして今、最も重要なのは日本で自分の将来について決めることです。私は日本に来る前、臨床でも研究でも将来具体的に何をやりたいのか迷っていました。浜松医大に来て、眼科の堀田先生、佐藤美保先生、光量子の蓑島先生をはじめ、身近な日本の方に出会って、勉強しているうちに、将来の目標



と発展方向がだんだん見えるようになってきました。人生というのは出会った人々によって大きく 変わるものだなーと感激しました。

ですから、私は日本への留学を選んで本当によかったと思っています。これからも目標を目指し

て日々様々なことを学んでいけるように精一杯頑 張りたいと思います。将来、中国へ戻っても日本 で得たものは、かけがえのない私の一生の宝とな るに違いありません。



劉 紅明

私は、中国から来た留学生で、劉紅明と申します。現在、浜松医科大学大学院3年生です。泌尿器科学講座で大園教授の御指導のもとで勉強をさせていただいております。

日本と中国の間に派遣留学の歴史が長く、文化 や科学技術などの交流が多く、両国が互いに大き な影響を受け合ってきました。近年、日本のテレ ビドラマは中国の若者の間で大変な人気を得たの で、日本のことをもっと知りたくなって来ました。 でも 真実の日本はどの様なのかは知りませんで した。大園教授のおかげで日本への留学のチャン スをいただいて浜松の方々にふれあうことができ るようになりました。やはり、浜松は人情味が溢 れる町だと思います。日本に来たばかりの頃は、 言葉や習慣などが違うため、大変でしたが、みん なからいつもあたたかい言葉をかけていただいて、 こころを打たれました。まるで自家のように感じ て、来る前の心配はすぐになくなりました。一時 帰国のとき、周りの人たちから日本に関している いろな質問をされ、私はできればできるだけ詳し く答えました。

日本に来る前に、私は日本語がしゃべれなくて、 研究についてもあまり分からなかったので、うま く行けるかどうか心配していました、日本に来て 大園教授を始め、先生方はとても優しくて、暖か く感じました。特に強く感動したのはこちらの先 生方の知識の広さ、深さ及び医学研究に対する情 熱でした。毎週いくつかの勉強会に参加させていただき、大変勉強になりました。担当の先生方は自分の研究分野に関する最新情報を紹介して、皆からの意見を聞いて、自分にも皆にも役立つと思います。立派な先生がいっぱいいる泌尿器科で勉強させていただいて、私は本当に幸運だと思います。

私の故郷は山西省です。山西省は黄河流域の中部にあり、太行山の西側に位置するため、「山西」と名づけられています。山西省鉱産資源が非常に豊富であり、そのうち石炭は中国でもよく知られており、「石炭の里」と称えされています。悠久の歴史があるので、豊富な観光名物をもつところもあります。北部には雲崗石窟、中部には仏教の聖地といわれる五台山があり、及び南部には黄河のただ一つの滝である壷口滝が世界でも有名なのです。私は北方の人といえども、日本の冬は湿り寒いと感じますから、今までずっと慣れていませんでした。

日本での留学は私の人生の貴重な経験となるように頑張っていきたいと思います。日本で学んだ 医学の知識、人の優しさ、そして私自身が経験したすべての事がすばらしい思い出となるように 願っています。また、自分の考え方にも大きな影響を与えられ、今後の人生にも役立つと思います。

最後になりましたが、この場を借りて、勉強生活の中でお世話になった皆さんに感謝を申し上げます、これからもどうぞよろしくお願いいたします。





浜松医科大学構内の植物

病理学教室第二講座技術専門職員

宮崎一夫

はじめに

浜松医科大学が建っているこの場所は三方原洪 積台地の東南端にあり、昭和40年頃までは小高い アカマツ林の丘陵地であった。マツタケも採れて、 ツツジやササユリが咲き、「ごかき」と言って落ち て積もった松葉や小枝を掻き集めて、風呂や炊事 用の燃料としていた。この三方原台地の周辺には 湧水があり、学内にも数ヶ所から浸み出ている。 当時はこの界隈にも多量な湧水があり人々が洗濯 などに利用をしていた。長閑な水車の音の周りで はアカハライモリが這いキツネやタヌキが歩き、 メジロやカラ類の鳴き声が絶えなかった。多様な 環境のもとに環境省で絶滅危惧植物に指定されて いる、キリガミネトウヒレンやミカワバイケイソ ウなどがその頃までは自生していた。しかし今は 道路に轢かれ建物の下敷きになってしまった。サ ギソウやシロバナカザグルマなど一部の絶滅危惧 植物は生育地を狭まれながらも現在も生育してい るが、いつまでこの花を咲かせることができるで あろうかと思われる。

植物は大気汚染物質であるNO₂、SO₂等を浄化する能力があり、水分の蒸発散を行って気化熱を消費し気温が上昇することを防いでいる。また騒音を遮り静かな空間をつくり、風にそよぐ音に癒され、フィトンチッドによる森林浴の効果もある。草花や野鳥、蝉、蜻蛉など身近な動植物の存在は、我々に快適感と潤いや安らぎを与えてくれている。

本学では吉利初代学長以来、植物の多様な価値を重んじて構内の緑を護ってきた。しかし必要に迫られて樹木を伐採して、看護棟などの建物を建て今も駐車場を拡張し続けている。本学が建立されて30数年が経ち、周辺を含めてこのように一変してしまった。この現状を記録しておくことは将

来にとって大切である と思い立ち、本学構内 の維管束植物を調査し たので報告する。

調査期間と調査方法

平成元年頃から目に ついた植物を筆者一人



筆者(標本作製室)

で記録してきた。ここ数年は山や林の中に入り踏査した。構内の全域を対象としたが、医大宿舎、半田山宿舎、看護宿舎の建物の直近は調査しなかった。また薬剤部が管轄している薬草園やリハビリの療法花壇などのほか、趣味による各所の花壇や鉢植えの植物も除外した。しかしその他の一般構内に植栽されているオオモクゲンジ(写真)などの樹木は対象とした。帰化植物の侵入や自然遷移などによる消長はあるが、一旦記録した種は削除しないで載せてある。また構内で最も高木であったユーカリのように既に伐採や除草などにより人為的に消滅してしまった種も載せてある。種の同定のために羊歯植物などの一部は腊葉標本を残してあるが、基本的には標本の保存はしてない。



オオモクゲンジ(舟岡橋)

結果と考察

植物目録を集計すると、学内には108科439種の維管束植物が生育していた。その内訳は羊歯29種、草本244種、木本166種であった。そのうち在来植物は291種、帰化植物は74種、植栽された樹木などは74種であった。草本の帰化率は約30%であり、全国の帰化率は17.5%で静岡県全体の帰化率は12.7%であり、いずれよりも高率で自然度が低い植生環境といえる。この原因は市街地に近

くかつ住宅が多い立地にあり、患者が通院する病院と学生や人々の交流が多い大学という特殊性による人工的な影響が大きいためと思われる。植栽種は74種あり、これらの花木は外来者や患者はもとより本学職員に与えるアメニティ効果は高いと思われる。特定外来生物法に指定されているオオキンケイギクが侵入していた。環境省または静岡県で絶滅危惧植物として指定されているシデコブシ(写真)、ツゲ、シラン(写真)が植栽され、ウスギムヨウランが自生していた。これらの指定種の取扱については注意が必要である。



シラン (保育所建設中)

おわりに

フクロウの声が響き渡り、一方で特定外来生物に指定されているタイワンリスが侵入している。タイワンリスの静岡県内における分布は、東伊豆と浜松市の東名高速道路以南であったが、筆者は2006年12月に本学構内で初見した。私達が日々の生活の1/3以上の時間を過ごしている構内の、共有財産である自然環境を知ることができるように、昆虫や鳥類など動物の調査もされて、将来も多様な種が生息してゆくことを願っている。

豊かな環境に生活する人は、心が豊かになると 信じつつ緑を眺めている。



シデコブシ(病院入口)

集計

科数	108	種数	439	羊歯	29	羊歯	29	在来種	291
				草本	244	多年草	131		
						越年草	39	帰化種	74
						一年草	74		
				木本	166	常緑高木	34	植栽種	74
						常緑低木	32		
						落葉高木	46	特定外来種	1
						落葉低木	37		
						藤本	17	絶滅危惧種	4

参考文献

佐竹義輔ほか 1989年 日本の野生植物Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、木本Ⅰ、木本Ⅱ、シダ 平凡社 清水建美 2003年 日本の帰化植物 平凡社

北村四郎ほか 平成4年 原色日本植物図鑑草本編Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、木本編Ⅰ、Ⅱ 保育社

田川基次 昭和49年 原色日本羊歯植物図鑑 保育社

長田武正 平成4年 原色日本帰化植物図鑑 保育社

長田武正 1997年 増補日本イネ科植物図譜 平凡社

杉本順一 昭和59年 静岡県植物誌 第一法規出版

牧野富太郎 / 前川文夫ほか改訂 昭和60年 牧野新日本植物圖鑑 北隆館

大井次三郎 / 北川政夫改訂 平成 4 年 新日本植物誌顕花篇 至文堂.

中池敏之 平成4年 新日本植物誌シダ篇改訂増補版 至文堂

岩槻邦男ほか 1994年 週刊朝日百科 植物の世界 朝日新聞社

静岡県自然保護室企画 平成16年 まもりたい静岡県の野生生物植物編 羽衣出版

環境庁編 2002年 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物植物 I (財) 自然環境研究センター

恒物日 球				(表甲の越牛早には2年早を含む)
和名	科名	生活型	備考	学 名
スギナ	とくさ科	羊歯	在来	Equisetum arvense L.
オオハナワラビ	はなやすり科	羊歯	在来	Botrychium japonicum (Prantl) Underw.
フユノハナワラビ	はなやすり科	羊歯	在来	Botrychium ternatum (Thunb.) Sw.
ナツノハナワラビ	はなやすり科	羊歯	在来	Botrychium virginianum (L.) Sw.
コハナヤスリ	はなやすり科	羊歯	在来	Ophioglossum thermale Komarov var. nipponicum (Miyabe et Kudo) Nishida
ゼンマイ	ぜんまい科	羊歯	在来	Osmunda japonica Thunb.
コシダ	うらじろ科	羊歯	在来	Dicranopteris linearis (Burm. fil.) Underw.
ウラジロ	うらじろ科	羊歯	在来	Gleichenia japonica Spr.
カニクサ	ふさしだ科	羊歯	在来	Lygodium japonicus (Thunb.) Sw.
イワヒメワラビ	こばのいしかぐま科	羊歯	在来	Hypolepis punctata (Thunb.) Mett. ex Kuhn
フモトシダ	こばのいしかぐま科	羊歯	在来	Microlepia marginata (Panzer) C. Chr.
ワラビ	こばのいしかぐま科	羊歯	在来	Pteridium aquilinum (L.) Kuhn var. latiusculum (Desv.) Undrew. ex Hell.
ホラシノブ	ほんぐうしだ科	羊歯	在来	Sphenomeris chinensis (L.) Maxon
タチシノブ	ほうらいしだ科	羊歯	在来	Onychium japonicum (Thunb.) Kunze
イノモトソウ	いのもとそう科	羊歯	在来	Pteris multifida Poir.
リョウメンシダ	おしだ科	羊歯	在来	Arachnioides standishii (Moore) Ohwi
オニヤブソテツ	おしだ科	羊歯	在来	Cyrtomium falcatum (L. fil.) Presl
ヤブソテツ	おしだ科	羊歯	在来	Cyrtomium foutunei J. Sm. var. foutunei
ヤマヤブソテツ	おしだ科	羊歯	在来	Cyrtomium foutunei J. Sm. var. clivicola (Makino) Tagawa
ベニシダ	おしだ科	羊歯	在来	Dryopteris erythrosora (Eaton) O.Ktze.
トウゴクシダ	おしだ科	羊歯	在来	Dryopteris nipponensis Koidz.
オオベニシダ	おしだ科	羊歯	在来	Dryopteris hondoensis Koidz.
クマワラビ	おしだ科	羊歯	在来	Dryopteris lacera (Thunb.) O. Ktze.
オクマワラビ	おしだ科	羊歯	在来	Dryopteris uniformis (Makino) Makino
イノデ	おしだ科	羊歯	在来	Polystichum polyblepharum (Roem. ex Kunze) Presl
ホシダ	ひめしだ科	羊歯	在来	Thelypteris acuminata (Houtt.) Morton
ミゾシダ	ひめしだ科	羊歯	在来	Stegnogramma pozoi (Lagasca) K. Iwats. subsp. mollissima (Fischer ex Kunze) K. Iwats.
ハシゴシダ	ひめしだ科	羊歯	在来	Thelypteris glanduligera (Kunze) Ching
ノキシノブ	うらぼし科	羊歯	在来	Lepisorus thuncergianus (Kaulf.) Ching
イチョウ	いちょう科	落葉高木	植栽	Ginkgo biloba L.
アカマツ	まつ科	常緑高木	在来	Pinus densiflora Sieb. et Zucc.
クロマツ	まつ科	常緑高木	在来	Pinus thunbergii Parlatore
スギ	すぎ科	常緑高木	在来	Cryptomeria japonica (L. fil.) D. Don
メタセコイア	すぎ科	落葉高木	植栽	Metasequoia glyptostroboides Hu et Cheng
ヒノキ	ひのき科	常緑高木	植栽	Chamaecyparis obtusa (Sieb. et Zucc.) Endl.
ネズミサシ	ひのき科	常緑高木	在来	Juniperus rigida Sieb. et Zucc.
カイズカイブキ	ひのき科	常緑低木	植栽	Juniperus chinensis L. var. kaizuka Hort.
イヌマキ	まき科	常緑高木	在来	Podocarpus macrophyllus (Thunb.)D. Don
ナギ	まき科	常緑高木	植栽	Podocarpus nagi (Thunb.) Zoll. et Moritz.

和名	科 名	生活型	備考	学 名
イチイ	いちい科	常緑低木	植栽	Taxus cuspidata Sieb. et Zucc.
ユーカリ	ふともも科	落葉高木	植栽	Eucalyptus gobulus Lab.
フェイジョア	ふともも科	常緑低木	植栽	Feijoa sellowiana Berg.
ヤシャブシ	かばのき科	落葉高木	在来	Alnus firma Sieb. et Zucc.
シナマンサク	まんさく科	落葉低木	植栽	Hamamelis mollis Oliv.
モミジバフウ	まんさく科	落葉高木	植栽	Liquidambar styraciflua L.
スダジイ	ぶな科	常緑高木	在来	Castanopsis sieboldii (Makino) Hatusima ex Yamazaki et Masiba
ツブラジイ	ぶな科	常緑高木	在来	Castanopsis cuspidata (Thunb. ex Murray) Schottky
コジイ	ぶな科	常緑高木	在来	Castanopsis cuspidata (Thunb. ex Murray) Schottky
マテバシイ	ぶな科	常緑高木	植栽	Pasania edulis (Makino) Makino
アラカシ	ぶな科	常緑高木	在来	Quercus glauca Thunb. ex Murray
シラカシ	ぶな科	常緑高木	在来	Quercus myrsinaefolia Blume
コナラ	ぶな科	落葉高木	在来	Quercus serrata Thunb. ex. Muuray
クリ	ぶな科	落葉高木	在来	Castanea crenata Sieb. et Zucc.
ヤマモモ	やまもも科	常緑高木	植栽	Myrica rubra Sieb. et Zucc.
ムクノキ	にれ科	落葉高木	在来	Aphananthe aspera (Thunb.) Planchon
エノキ	にれ科	落葉高木	在来	Celtis sinensis Persoon var. japonica (Planch.) Nakai
アキニレ	にれ科	落葉高木	植栽	Ulmus parvifolia Jacquin
ケヤキ	にれ科	落葉高木	植栽	Zelkova serrata (Thunb.) Makino
ヒメコウゾ	くわ科	落葉低木	在来	Broussonetia kazinoki Sieb.
クワ	くわ科	落葉高木	在来	Morus australis Poir.
クワクサ	くわ科	一年草	在来	Fatoua villosa (Thunb.) Nakai
イヌビワ	くわ科	落葉低木	在来	Ficus erecta Thunberg
カナムグラ	あさ科	一年草	在来	Humulus scandens (Lour.) Merrill
ミズヒキ	たで科	多年草	在来	Antenoron filiforme (Thunb.) Roberty et Vautier
シャクチリソバ	たで科	多年草	植栽	Fagopyrum cymosum Meisn.
イヌタデ	たで科	一年草	在来	Persicaria longiseta (De Bruyn) Kitag.
ヤブタデ	たで科	一年草	在来	Polygonum posumbu Hamilt. ex D.Don
アキノウナギツカミ	たで科	一年草	在来	Persicaria sieboldii (Meisn.) Ohki
ミチヤナギ	たで科	一年草	在来	Polygonum aviculare L.
イタドリ	たで科	多年草	在来	Reynoutria japonica Houtt.
スイバ	たで科	多年草	在来	Rumex acetosa L.
アレチギシギシ	たで科	多年草	帰化	Rumex conglomeratus Murr.
ナガバギシギシ	たで科	多年草	帰化	Rumex crispus L.
ギシギシ	たで科	多年草	在来	Rumex japonicus Houtt.
ヨウシュヤマゴボウ	やまごぼう科	多年草	帰化	Phytolacca americana L.
オシロイバナ	おしろいばな科	多年草	帰化	Mirabilis jalapa L.
ザクロソウ	ざくろそう科	一年草	在来	Mollugo pentaphylla L.
スベリヒユ	すべりひゆ科	一年草	在来	Portulaca oleracea L.
ハゼラン	すべりひゆ科	一年草	帰化	Talinum crassifolium Willd.

和名	科 名	生活型	備考	学名
ノミノツヅリ	なでしこ科	一年草	在来	Arenaria serpyllifolia L.
オランダミミナグサ	なでしこ科	越年草	帰化	Cerastium viscosum L.
フタマタマンテマ	なでしこ科	越年草	植栽	Silene dichotoma Ehrh,
ミミナグサ	なでしこ科	越年草	在来	Cerastium holosteides Fries var. hallaisanense (Nakai) Mizushima
ツメクサ	なでしこ科	一年草	在来	Sagina japonica (Sw.) Ohwi
アライトツメクサ	なでしこ科	越年草	帰化	Sagina procumbens L.
ノミノフスマ	なでしこ科	一年草	在来	$Stellaria\ alsine\ Grimm\ var.\ undulata\ (Thunb.)\ Ohwi$
ウシハコベ	なでしこ科	越年草	在来	Myosoton aquaticum (L.) Moench
コハコベ	なでしこ科	越年草	在来	Stellaria media (L.) Villars
ハコベ	なでしこ科	越年草	在来	Stellaria neglecta Weihe
ミドリハコベ	なでしこ科	越年草	在来	Stellaria neglecta Weihe
コアカザ	あかざ科	一年草	帰化	Chenopodium ficifolium Smith
イノコズチ	ひゆ科	多年草	在来	Achyranthes japonica (Miq.) Nakai
ヒナタイノコズチ	ひゆ科	多年草	在来	$A chyran the s\ bidentata\ Blume\ var.\ tomentosa\ (Honda)\ Hara$
ホナガイヌビユ	ひゆ科	一年草	帰化	$A maranthus\ viridis\ L.$
ハクモクレン	もくれん科	落葉高木	植栽	Magnolia heptapera (Buchoz) Dandy
ホオノキ	もくれん科	落葉高木	在来	Magnolia obovata Thunb.
モクレン	もくれん科	落葉高木	植栽	Magnolia liliflora Desr.
シデコブシ	もくれん科	落葉低木	RDB植栽	Magnolia stellata (Sieb. et Zucc.) Maxim.
タイサンボク	もくれん科	常緑高木	植栽	${\it Magnolia}\ {\it grandiflora}\ {\it L}.$
サネカズラ	まつぶさ科	常緑藤本	在来	Kadsura japonica (Thunb.) Dunal
クスノキ	くすのき科	常緑高木	在来	Cinnamomum camphora (L.) Presl
ヤブニッケイ	くすのき科	常緑高木	在来	Cinnamomum japonicum Sieb. ex Nees
タブノキ	くすのき科	常緑高木	在来	Machilus thunbergii Sieb. et Zucc.
シロダモ	くすのき科	常緑高木	在来	Neolitsea sericea (Bl.) Koidzumi
ボタンヅル	きんぽうげ科	落葉藤本	在来	Clematis apiifolia DC.
センニンソウ	きんぽうげ科	多年草	在来	$Clematis\ terniflora\ DC.$
ケキツネノボタン	きんぽうげ科	多年草	在来	Ranunculus cantoniensis DC.
ナンテン	めぎ科	落葉低木	在来	Nandina domestica Thunb.
ヒイラギナンテン	めぎ科	常緑低木	植栽	Mahonia japonica (Thunb.) DC.
ゴヨウアケビ	あけび科	落葉藤本	在来	Akebia x pentaphylla Makino
アケビ	あけび科	落葉藤本	在来	Akebia quinata (Thunb.) Decaisne
ミツバアケビ	あけび科	落葉藤本	在来	Akebia trifoliata (Thunb.) Koidz.
アオツヅラフジ	つづらふじ科	常緑藤本	在来	Cocculus trilobus (Thunb.) DC.
ツヅラフジ	つづらふじ科	常緑藤本	在来	Sinomenium acutum (Thunb.) Rehd. et Wils.
ドクダミ	どくだみ科	多年草	在来	Houttuynia cordata Thunb.
センリョウ	せんりょう科	常緑低木	在来	Sarcandra glaber (Thunb.) Nakai
キミノセンリョウ	せんりょう科	常緑低木	在来	Chloranthus glaber var. flava
ヤブツバキ	つばき科	常緑低木	在来	Camellia japonica L. var. japonica
サザンカ	つばき科	常緑低木	植栽	Camellia sasanqua Thunb. ex Murray

和名	科 名	生活型	備考	学 名
チャ	つばき科	常緑低木	植栽	Camellia sinensis (L.) O. Kuntze
サカキ	つばき科	常緑高木	在来	Cleyera japonica Thunb.
ヒサカキ	つばき科	常緑低木	在来	Eurya japonica Thunberg
ツバキ	つばき科	常緑高木	植栽	Camellia japonica L.
モッコク	つばき科	常緑低木	植栽	Ternstroemia gymnanthera (Wight et Arn.) Sprague
ジロボウエンゴサク	けまんそう科	多年草	在来	Corydalis decumbens (Thunb.) Pers.
ムラサキケマン	けまんそう科	一年草	在来	Corydalis incisa (Thunb.) Pers.
ナズナ	あぶらな科	越年草	在来	Capsella bursa-pastoris Medicus
タネツケバナ	あぶらな科	一年草	在来	Cardamine flexuosa With.
マメグンバイナズナ	あぶらな科	越年草	帰化	Lepidium virginicum L.
ミチバタガラシ	あぶらな科	多年草	在来	Rorippa dubia Hara
スズカケノキ	すずかけのき科	落葉高木	植栽	Platanus orientalis L.
コモチマンネングサ	べんけいそう科	越年草	在来	Sedum bulbiferum Makino
セイヨウアジサイ	あじさい科	落葉低木	植栽	Hydrangea macrophylla (Thunb. ex Murray) Ser. f. hortensia (Lam.) Rehder
ウツギ	ゆきのした科	落葉低木	在来	Deutzia crenata Sieb. et Zucc.
トベラ	とべら科	常緑低木	植栽	Pittosporum tobira (Thunb. ex Murray) Aiton
キンミズヒキ	ばら科	多年草	在来	Agrimonia pilosa Ledeb. var. japonica (Miq.) Nakai
ヘビイチゴ	ばら科	多年草	在来	Duchesnea chrysantha (Zoll. et Mor.) Miq.
ヤブヘビイチゴ	ばら科	多年草	在来	Duchesnea indica (Andr.) Focke
ビワ	ばら科	常緑高木	在来	Eriobotrya japonica (Thunb.) Lindl.
シロバナノヘビイチゴ	ばら科	多年草	在来	Fragaria nipponica Makino
カナメモチ	ばら科	常緑高木	在来	Photinia glabra (Thunberg) Maximowicz
カマツカ	ばら科	落葉低木	在来	Pourthiaea vilosa (Thunb.) Decaisne var. laevis (Thunb.) Stapf.
ヤマザクラ	ばら科	落葉高木	在来	Prunus jamasakura Sieb. ex Koidz.
オオシマザクラ	ばら科	落葉高木	植栽	Prunus lannesiana var. speciosa (Koidz.) Makino
カリン	ばら科	落葉高木	植栽	Chaenomeles sinensis (Thouin) Koehne
トキワサンザシ	ばら科	常緑低木	植栽	Pyracantha coccinea (L.) Roem.
シャリンバイ	ばら科	常緑低木	植栽	Raphiolepis indica (L.) Lindl. ex Ker var. umbellata (Thunb. ex Murray) Ohashi
ノイバラ	ばら科	落葉藤本	在来	Rosa multiflora Thunb.
ウシコロシ	ばら科	落葉低木	在来	Pourthiaea vilosa (Thunb.) Decaisne var. laevis (Thunb.) Stapf.
アンズ	ばら科	落葉高木	植栽	Prunus armeniaca L. var. ansu Maxim.
クサイチゴ	ばら科	落葉低木	在来	Rubus hirsutus Thunberg
ヒカンザクラ	ばら科	落葉高木	植栽	Prunus cerasoides D. Don var. canpanulata (Maxim.) Koidz.
ニガイチゴ	ばら科	落葉低木	在来	Rubus microphyllus L. fil.
モミジイチゴ	ばら科	落葉低木	在来	Rubus palmatus Thunberg var. coptophyllus (A. Gray) O. Kuntze
ウメ	ばら科	落葉低木	植栽	Prunus mume (Sieb.) Sieb. et Zucc.
ネムノキ	まめ科	落葉高木	在来	Albizia julibrissin Durazz.
ヤブマメ	まめ科	一年草	在来	Amphicarpaea edgeworthii Benth. var. japonica Oliver
アレチヌスビトハギ	まめ科	多年草	帰化	Desmodium paniculatum (L.) DC.
ヌスビトハギ	まめ科	多年草	在来	Desmodium podocarpum DC. subsp. oxyphyllum (DC.) Ohashi

和名	科名	生活型	備考	学名
ノアズキ	まめ科	多年草	在来	Dunbaria villosa (Thunb.) Makino
ツルマメ	まめ科	一年草	在来	Glycine soja Sieb. et Zucc.
コマツナギ	まめ科	落葉低木	在来	Indigofera psuedo-tinctoria Matsum.
マルバヤハズソウ	まめ科	一年草	在来	Kummerovia stipulacea Makino
ヤマハギ	まめ科	多年草	在来	Lespedeza bicolor Turcz.
メドハギ	まめ科	多年草	在来	Lespedeza cuneata (DuMont de Courset) G. Don
コメツブウマゴヤシ	まめ科	一年草	帰化	Medicago lupulina L.
クズ	まめ科	多年草	在来	Pueraria lobata (Willd.) Ohwi
エンジュ	まめ科	落葉高木	植栽	Sophora japonica L.
アカツメクサ	まめ科	多年草	帰化	Trifolium pratense L.
シロツメクサ	まめ科	多年草	帰化	Trifolium repens L.
アメリカデイゴ	まめ科	落葉高木	植栽	Erythrina crista-galli L.
スズメノエンドウ	まめ科	越年草	在来	Vicia hirsuta (L.) S. F. Gray
カラスノエンドウ	まめ科	一年草	在来	Vicia sepium L.
カスマグサ	まめ科	越年草	在来	Vicia tetrasperma (L.) Schreb.
フジ	まめ科	落葉藤本	在来	Wisteria floribunda (Willd.) DC.
ハナズオウ	まめ科	落葉低木	植栽	Cercis chinensis Bunge
カタバミ	かたばみ科	多年草	在来	Oxalis corniculata L.
ムラサキカタバミ	かたばみ科	多年草	帰化	Oxalis corymbosa DC.
オッタチカタバミ	かたばみ科	多年草	帰化	Oxalis stricta L.
アメリカフウロ	ふうろそう科	一年草	帰化	Geranium carolinianum L.
ゲンノショウコ	ふうろそう科	多年草	在来	Geranium nepalense Sweet subsp. thunbergii (Sieb. et Zucc.) Hara
エノキグサ	とうだいぐさ科	一年草	在来	Acalypha australis L.
アブラギリ	とうだいぐさ科	落葉高木	植栽	Aleurites cordata (Thunb.) R. Br. ex Steud
ニシキソウ	とうだいぐさ科	一年草	在来	Euphorbia pseudochamaesyce Fisch., Mey. et Lallem.
コニシキソウ	とうだいぐさ科	一年草	帰化	Euphorbia supina Rafin.
アカメガシワ	とうだいぐさ科	落葉低木	在来	Mallotus japonicus (Thunb. ex Murray) Mueller-Arg.
コミカンソウ	とうだいぐさ科	一年草	在来	Phyllanthus urinaria L.
ナンキンハゼ	とうだいぐさ科	落葉高木	植栽	Sapium sebiferum (L.) Roxb.
ユズリハ	ゆずりは科	常緑高木	在来	Daphniphylum macropodum Miquel
ミヤマシキミ	みかん科	常緑低木	在来	Skimmia japonica Thunberg
キンカン	みかん科	常緑低木	植栽	Fortunella japonica Swingle
カラスザンショウ	みかん科	落葉高木	在来	Fagara ailanthoides Engl.
シンジュ	にがき科	落葉高木	植栽	Ailanthus altissima Swingle
ヌルデ	うるし科	落葉高木	在来	Rhus chinensis Mill.
ハゼノキ	うるし科	落葉高木	在来	Rhus succedanea L.
ヤマハゼ	うるし科	落葉低木	在来	Rhus sylvestris Sieb. et Zucc.
ヤマウルシ	うるし科	落葉低木	在来	Rhus trichocarpa Miquel
ウリカエデ	かえで科	落葉高木	植栽	Acer crataegifolium Sieb. et Zucc.
1口ハモミジ	かえで科	落葉高木	植栽	Acer palmatum Thunb.

和名	科 名	生活型	備考	学 名
トウカエデ	かえで科	落葉高木	植栽	Acer buergerianum Miq.
ウリハダカエデ	かえで科	落葉高木	植栽	Acer rufinerve Sieb. et Zucc.
オオモクゲンジ	むくろじ科	落葉高木	植栽	Koelreuteria bipinnata var. integrifoliola
トチノキ	とちのき科	落葉高木	植栽	Aesculus turbinata Blume
イヌツゲ	もちのき科	常緑低木	在来	Ilex crenata Thunb.
モチノキ	もちのき科	常緑高木	在来	Ilex integra Thunb.
アオハダ	もちのき科	落葉高木	在来	Ilex macropoda Miq.
ソヨゴ	もちのき科	常緑高木	在来	Ilex pedunculosa Miq.
クロガネモチ	もちのき科	常緑高木	在来	Ilex rotunda Thunb.
ウメモドキ	もちのき科	落葉低木	在来	Ilex serrata Thunb.
ツルウメモドキ	にしきぎ科	落葉藤本	在来	Celastrus orbiculatus Thunb.
ニシキギ	にしきぎ科	落葉低木	植栽	Euonymus alatus (Thunb.) Sieb.
ゴンズイ	みつばうつぎ科	落葉高木	在来	Euscaphis japonica (Thunb.) Kanitz
ツゲ	つげ科	常緑低木	RDBES植栽	Buxus microphylla Sieb. et Zucc. var. japonica (Muell. Arg. ex Miq.) Rehder et Wils.
ノブドウ	ぶどう科	落葉藤本	在来	Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv.
ヤブガラシ	ぶどう科	多年草	在来	Cayratia japonica (Thunb.) Gagn.
ツタ	ぶどう科	落葉藤本	在来	Parthenocissus tricuspidata (Sieb. et Zucc.) Planch.
ホルトノキ	ほるとのき科	常緑高木	植栽	${\it Elaeocarpus sylvestris (Lour.) Poir. var. ellipticus (Thunb. ex Murray) Hara}$
ツルグミ	ぐみ科	常緑藤本	在来	Elaeagnus glabra Thunb.
ナツグミ	ぐみ科	落葉低木	在来	Elaeagnus multiflora Thunb.
イイギリ	いいぎり科	落葉高木	在来	Idesia polycarpa Maxim.
アリアケスミレ	すみれ科	多年草	在来	${\it Viola\ betonici folia\ Smith\ var.\ albescens\ (Nakai)\ F.\ Maek.}$
タチツボスミレ	すみれ科	多年草	在来	Viola grypoceras A. Gray
スミレ	すみれ科	多年草	在来	Viola mandshurica W. Becker
ヒメスミレ	すみれ科	多年草	在来	Viola minor (Makino) Makino
ツボスミレ	すみれ科	多年草	在来	Viola verecunda A. Gray
ノジスミレ	すみれ科	多年草	在来	Viola yedoensis Makino
スズメウリ	うり科	一年草	在来	Melothria japonica (Thunb.) Maxim. ex Cogn.
カラスウリ	うり科	多年草	在来	$Trichosanthes\ cucumeroides\ (Ser.)\ Maxim.$
サルスベリ	みそはぎ科	落葉低木	在来	Lagerstroemia indica L.
メマツヨイグサ	あかばな科	越年草	帰化	Oenothera biennis L.
コマツヨイグサ	あかばな科	多年草	帰化	Oenothera laciniata Hill
アオキ	みずき科	常緑低木	在来	Aucuba japonica Thunb.
ヤマボウシ	みずき科	落葉高木	植栽	Benthamidia japonica (Sieb. et Zucc.) Hara
ミズキ	みずき科	落葉高木	植栽	Cornus controversa Hemsley
タラノキ	うこぎ科	落葉低木	在来	Aralia elata (Miq.) Seemann
カクレミノ	うこぎ科	常緑高木	在来	Dendropanax trifidus (Thunb.) Makino
ヤツデ	うこぎ科	常緑低木	在来	Fatsia japonica (Thunb.) Decne. et Planch.
キヅタ	うこぎ科	常緑藤本	在来	Hedera rhombea (Miq.) Bean
ノダケ	せり科	多年草	在来	Angelica decursiva (Miq.) Franch. et Savat.

和名	科名	生活型	備考	学 名
ツボクサ	せり科	多年草	在来	Centella asiatica (L.) Urban
ミツバ	せり科	多年草	在来	Cryptotaenia japonica Hassk.
ノチドメ	せり科	多年草	在来	Hydrocotyle matirima Honda
チドメグサ	せり科	多年草	在来	$Hydrocotyle\ sibthorpioides\ Lam.$
ヤブジラミ	せり科	一年草	在来	Torilis japonica (Houtt.) DC.
オヤブジラミ	せり科	一年草	在来	Torilis scabra (Thunb.) DC.
ドウダンツツジ	つつじ科	落葉低木	植栽	Enkianthus perulatus (Miquel) Schneider
ネジキ	つつじ科	落葉高木	在来	Lyonia ovalifolia (Wall.) Drude subsp. neziki Hara
アセビ	つつじ科	常緑低木	在来	Pieris japonica (Thunb.) D. Don
ミツバツツジ	つつじ科	落葉低木	植栽	Rhododendron dilatatum Miquel
サツキ	つつじ科	常緑低木	植栽	Rhododendron indicum (L.) Sweet
モチツツジ	つつじ科	常緑低木	在来	$Rhododendron\ macrosepalum\ Maxim.$
ヤマツツジ	つつじ科	常緑低木	在来	$Rhododendron\ japonicum$
ヒラドツツジ	つつじ科	常緑低木	植栽	Rhododendron hirado azarea hybrids
マンリョウ	やぶこうじ科	常緑低木	在来	Ardisia crenata Sims
エゴノキ	えごのき科	落葉高木	在来	Styrax japonica Sieb. et Zucc.
ハクウンボク	えごのき科	落葉高木	植栽	Styrax obassia Sieb. et Zucc.
クロバイ	はいのき科	常緑高木	在来	Symplocos prunifolia Sieb. et Zucc.
ネズミモチ	もくせい科	常緑高木	在来	Ligustrum japonicum Thunb.
イボタノキ	もくせい科	落葉低木	植栽	Ligustrum obtusifolium Sieb. et Zucc.
ヒイラギ	もくせい科	常緑低木	在来	Osmanthus heterophyllus (G. Don) P. S. Green
テイカカズラ	きょうちくとう科	常緑藤本	在来	Trachelospermum asiaticum (Sieb. et Zucc.) Nakai
キョウチクトウ	きょうちくとう科	常緑低木	植栽	Nerium indicum Mill.
アリドオシ	あかね科	常緑低木	在来	Damnacanthus indicus Gaertner fil.
ヤエムグラ	あかね科	一年草	在来	Galium spurium L. var. echinospermon (Wallr.) Hayek
ヨツバムグラ	あかね科	多年草	在来	Galium trachyspermum A. Gray
クチナシ	あかね科	常緑低木	在来	Gardenia jasminoides Ellis
フタバムグラ	あかね科	一年草	在来	Hedyotis diffusa Willd.
ヘクソカズラ	あかね科	多年草	在来	Paederia scandens (Lour.) Merr.
アカネ	あかね科	多年草	在来	Rubia argyi (L思.) Hara
ザクロ	ざくろ科	落葉低木	植栽	Punica granatum L.
キュウリグサ	むらさき科	一年草	在来	Trigonotis peduncularis (Trevir.) Benth.
ハナミズキ	みずき科	落葉高木	植栽	Benthamidia florida (L.) Spach
ムラサキシキブ	くまつづら科	落葉低木	在来	Callicarpa japonica Thunb.
ヤブムラサキ	くまつづら科	落葉低木	在来	Callicarpa mollis Sieb. et Zucc.
クサギ	くまつづら科	落葉低木	在来	Clerodendrum trichotomum Thunb.
シチヘンゲ	くまつづら科	落葉低木	植栽	Lantana camara L.
シュッコンバーベナ	くまつづら科	多年草	帰化	Salvia rigida Spreng.
キランソウ	しそ科	多年草	在来	Ajuga decumbens Thunb.
トウバナ	しそ科	多年草	在来	Clinopodium gracile (Benth.) O. Kuntze

和名	科名	生活型	備考	学 名
カキドオシ	しそ科	多年草	在来	Glechoma luchuensis (Kudo) Masam.
ホトケノザ	しそ科	一年草	在来	Lamium amplexicaule L.
ヒメオドリコソウ	しそ科	越年草	帰化	Lamium purpureum L.
セイヨウジュウニヒトエ	しそ科	多年草	植栽	Ajuga reptans L.
クコ	なす科	落葉低木	在来	Lycium chinense Miller
ワルナスビ	なす科	多年草	帰化	Solanum carolinense L.
イヌホオズキ	なす科	一年草	帰化	Solanum nigrum L.
アメリカイヌホオズキ	なす科	一年草	帰化	Solanum americanum Mill.
ニオイバンマツリ	なす科	落葉低木	植栽	Brunfelsia latifolia Benth.
マツバウンラン	ごまのはぐさ科	越年草	帰化	Linaria canadensis (L.) Dum.
ウリクサ	ごまのはぐさ科	一年草	在来	Vandellia crustacea (L.) Benth.
トキワハゼ	ごまのはぐさ科	多年草	在来	Mazus pumilus (Burm. fil.) van Steenis.
ムラサキサギゴケ	ごまのはぐさ科	多年草	在来	Mazus miquelii Makino
タチイヌノフグリ	ごまのはぐさ科	一年草	帰化	Veronica arvensis L.
ムシクサ	ごまのはぐさ科	一年草	在来	Veronica peregrina L.
ヒメキンギョソウ	ごまのはぐさ科	一年草	植栽	Antirrhinum odoratum
ビロードモウズイカ	ごまのはぐさ科	一年草	帰化	Verbascum thapsus L.
オオイヌノフグリ	ごまのはぐさ科	越年草	帰化	Veronica persica Poir.
キササゲ	のうぜんかずら科	落葉高木	在来	Catalpa ovata G. Don
ノウゼンカズラ	のうぜんかずら科	多年草	植栽	Campsis grandiflora (Thunb.) Loisel.
キツネノマゴ	きつねのまご科	一年草	在来	Justicia procumbens L. var. leucantha Honda
オオバコ	おおばこ科	多年草	在来	Plantago asiatica L.
ツボミオオバコ	おおばこ科	越年草	帰化	Plantago virginica L.
スイカズラ	すいかずら科	常緑藤本	在来	Lonicera japonica Thunberg
コバノガマズミ	すいかずら科	落葉低木	在来	Viburnum erosum Thunberg
サンゴジュ	すいかずら科	常緑高木	植栽	Viburnum odoratissimum var. awabuki
ハナゾノツクバネウツギ	すいかずら科	常緑低木	植栽	Abelia grandiflora Rehder
オトコヨウゾメ	すいかずら科	落葉低木	在来	Viburnum phlebotrichum Sieb. et Zucc.
ヒナギキョウ	ききょう科	多年草	在来	Wahlenbergia marginata (Thunb.) A. DC.
キキョウソウ	ききょう科	多年草	帰化	Specularia perfoliata (L.) A. DC.
ヒナキキョウソウ	ききょう科	一年草	帰化	Specularia biflora Fisch. et Mey.
シナレンギョウ	もくせい科	落葉低木	植栽	Forsythia viridissima Lindl.
キンモクセイ	もくせい科	常緑低木	植栽	Osmanthus fragrans Lour. var. aurantiacus Makino
ヌマダイコン	きく科	多年草	在来	Adenostemma lavenia (L.) O. Kuntze
ヨモギ	きく科	多年草	在来	Artemisia indica Willd.
ノコンギク	きく科	多年草	在来	Aster ageratoides Turcz. subsp. ovatus (Franch. et Savat.) Kitam.
アメリカセンダングサ	きく科	一年草	帰化	Bidens frondosa L.
コセンダングサ	きく科	一年草	帰化	Bidens pilosa L.
コシロノセンダングサ	きく科	一年草	帰化	Bidens pilosa L. var. minor (Blume) Sherff
トキンソウ	きく科	一年草	在来	Centipeda minima (L.) A. Br. et Aschers.

和名	科 名	生活型	備考	学 名
ノアザミ	きく科	多年草	在来	Cirsium japonicum DC.
スズカアザミ	きく科	多年草	在来	Cirsium suzukaense Kitam.
オオキンケイギク	きく科	多年草	特定外来	Coreopsis lanceolata L.
ダンドボロギク	きく科	一年草	帰化	Erechtites hieracifolia (L.) Raf.
ヒメジョオン	きく科	一年草	帰化	Stenactis annuus (L.) Cass.
アレチノギク	きく科	越年草	在来	Conyza bonariensis (L.) Cronq.
ヒメムカシヨモギ	きく科	一年草	帰化	Conyza canadensis L.
ハルジオン	きく科	越年草	帰化	$Erigeron\ philadelphicus\ L.$
オオアレチノギク	きく科	越年草	帰化	Conyza sumatrensis (Retz.) Walker
ハキダメギク	きく科	一年草	帰化	Galinsoga ciliata (Raf.) Blake
ハハコグサ	きく科	越年草	在来	Gnaphalium affine D. Don
タチチチコグサ	きく科	越年草	帰化	Gnaphalium calviceps Fern
チチコグサモドキ	きく科	越年草	帰化	Gnaphalium pensylvanicum Willd.
ウスベニチチコグサ	きく科	越年草	帰化	Gnaphalium purpreum L.
ウラジロチチコグサ	きく科	越年草	帰化	$Gnaphalium\ spicatum\ L.$
キツネアザミ	きく科	越年草	在来	Hemistepta lyrata Bunge
ブタナ	きく科	多年草	帰化	$Hypochaeris\ radicata\ L.$
オオジシバリ	きく科	多年草	帰化	Ixeris debilis A. Gray
ニガナ	きく科	多年草	在来	Ixeris dentata (Thunb.) Nakai
イワニガナ	きく科	多年草	在来	Ixeris stolonifera A. Gray
アキノノゲシ	きく科	越年草	在来	Lactuca indica L.
ヤブタビラコ	きく科	越年草	在来	Lapsana humilis (Thunb.) Makino
センボンヤリ	きく科	多年草	在来	Leibnitzia anandria (L.) Turcz.
コウヤボウキ	きく科	落葉低木	在来	Pertya scandens (Thunb.) Sch. Bip.
コウゾリナ	きく科	越年草	在来	Picris hieracioides L. var. grabrescens (Regel) Ohwi
ノボロギク	きく科	越年草	在来	Senecio vulgaris L.
セイタカアワダチソウ	きく科	多年草	帰化	Solidago altissima L.
オニノゲシ	きく科	越年草	帰化	Sonchus asper (L.) Hill.
ハルノノゲシ	きく科	越年草	在来	Sonchus oleraceus L.
ノゲシ	きく科	越年草	在来	Sonchus oleraceus L.
アカミタンポポ	きく科	多年草	帰化	Taraxacum laevigatum DC.
ヒロハタンポポ	きく科	多年草	在来	Taraxacum longeappendiculatum Nakai
セイヨウタンポポ	きく科	多年草	帰化	Taraxacum officinale Weber
カントウタンポポ	きく科	多年草	在来	Taraxacum platycarpum Dahlst.
オオオナモミ	きく科	一年草	帰化	Xanthium canadense Mill.
オニタビラコ	きく科	越年草	在来	Youngia japonica (L.) DC.
ノギラン	ゆり科	多年草	在来	Metanarthecium luteo-viride Maxim.
チゴユリ	ゆり科	多年草	在来	Disporum smilacinum A. Gray
ササユリ	ゆり科	多年草	在来	Lilium japonicum Thunb.
タカサゴユリ	ゆり科	多年草	帰化	Lilium formosanum Wall.

和名	科 名	生活型	備考	学 名
ヤブラン	ゆり科	多年草	在来	Liriope tawadae Ohwi
ハタケニラ	ゆり科	多年草	帰化	Nothoscordum fragrans Kunth
ジャノヒゲ	ゆり科	多年草	在来	Ophiopogon japonicus (L. fil.) Ker-Gawl.
アマドコロ	ゆり科	多年草	植栽	Polygonatum odoratum (Mill.) Druce var. pluriflorum (Miq.) Ohwi
ツルボ	ゆり科	多年草	在来	Scilla scilloides (Lindl.) Druce
サルトリイバラ	ゆり科	落葉藤本	在来	Smilax china L.
タチシオデ	ゆり科	多年草	在来	Smilax nipponica Miq.
シオデ	ゆり科	多年草	在来	Smilax riparia A. DC. var. ussuriensis (Regel) Hara et T. Koyama
キダチロカイ	ゆり科	多年草	在来	Aloe arborescens Mill.
ハラン	ゆり科	多年草	植栽	Aspidistra elatior Bl.
タチドコロ	やまのいも科	多年草	在来	Dioscorea gracillima Miq.
ヤマノイモ	やまのいも科	常緑高木	在来	Dioscorea opposita Thunb.
オニドコロ	やまのいも科	多年草	在来	Dioscorea tokoro Makino
ニワゼキショウ	あやめ科	多年草	帰化	Sisyrinchium rosulatum Bickn.
ルリニワゼキショウ	あやめ科	多年草	帰化	Sisyrinchium angustifolium Bickn
アイイロニワゼキショウ	あやめ科	多年草	帰化	Sisyrinchium graminoides
オオニワゼキショウ	あやめ科	多年草	帰化	Sisyrinchium iridifolium var. laxum
ヒメヒオウギズイセン	あやめ科	多年草	帰化	Crocosmia crocosmiiflora N. E. Br.
スズメノヤリ	いぐさ科	多年草	在来	Luzula capitata (Miq.) Miq.
ツユクサ	つゆくさ科	一年草	在来	Commelina communis L.
トキワツユクサ	つゆくさ科	多年草	帰化	Tradescantia flumiensis Vell.
ヤブミョウガ	つゆくさ科	多年草	在来	Pollia japonica Thunb.
アオカモジグサ	いね科	越年草	在来	Agropyron ciliare (Trin.) Franch. var. minus (Miq.) Ohwi
カモジグサ	いね科	多年草	在来	Agropyron tsukushiense (Honda) Ohwi var. transiens (Hack.) Ohwi
スズメノテッポウ	いね科	一年草	在来	Alopecurus aequalis Sobol. var. amurensis (Komar.) Ohwi
カラスムギ	いね科	一年草	帰化	Avena fatua L.
コバンソウ	いね科	一年草	帰化	Briza maxima L.
ヒメコバンソウ	いね科	一年草	帰化	Briza minor L.
ノゲイヌムギ	いね科	多年草	帰化	Bromus sitchensis Trin.
カモガヤ	いね科	多年草	帰化	Dactylis glomerata L.
メヒシバ	いね科	一年草	在来	Digitaria ciliaris (Retz.) Koeler
アキメヒシバ	いね科	一年草	在来	Digitaria violascens Link
オヒシバ	いね科	一年草	在来	Eleusine indica (L.) Gaertner
アブラススキ	いね科	多年草	在来	Eccoilopus cotulifer (Thunb.) A. Camus
トダシバ	いね科	多年草	在来	Arundinella hirta (Thunb.) C. Tanaka
カゼクサ	いね科	多年草	在来	Eragrostis ferruginea (Thunb.) Beauv.
ニワホコリ	いね科	一年草	在来	Eragrostis multicaulis Steud.
コスズメガヤ	いね科	一年草	帰化	Eragrostis minor Host
チガヤ	いね科	多年草	在来	Imperata cylindrica (L.) Beauv. var. koenigii (Retz.) Durand et Schinz
ミノボロモドキ	いね科	多年草	帰化	Rostraria cristata (L.) Tsvel.

和名	科名	生活型	備考	学 名
ネズミホソムギ	いね科	越年草	帰化	Lolium hybridum Hausskn.
ネズミムギ	いね科	越年草	帰化	Lolium multiflorum Lam.
ホソムギ	いね科	越年草	帰化	Lolium perenne L.
ササクサ	いね科	多年草	在来	Lophatherum gracile Brongn.
イヌビエ	いね科	一年草	在来	Echinochloa crus-galli (L.) Beauv. var.crus-galli
ススキ	いね科	多年草	在来	Miscanthus sinensis Anderss.
オギ	いね科	多年草	在来	Miscanthus sacchariflorus (Maxim.) Benth.
チヂミザサ	いね科	一年草	在来	Oplismenus undulatifolius (Arduino) Roemer et Schultes
ヨシ	いね科	多年草	在来	Phragmites communis Trin.
マダケ	いね科	多年草	在来	Phyllostachys bambusoides Sieb. etZucc.
ハチク	いね科	多年草	在来	Phyllostachys nigra (Loddiges) Munro var. henonis (Bean) Stapf.
モウソウチク	いね科	多年草	在来	Phyllostachys heterocycla Mitf. var. pubescens Ohwi
ネザサ	いね科	多年草	在来	Pleioblastus variegatus var. viridis
メダケ	いね科	多年草	在来	Pleioblastus simonii (Carr.) Nakai
スズメノカタビラ	いね科	一年草	在来	Poa annua L.
アオスズメノカタビラ	いね科	一年草	帰化	Poa annua L.subsp.annua
アキノエノコログサ	いね科	一年草	在来	Setaria faberi Herrm.
キンエノコロ	いね科	一年草	在来	Setaria glauca (L.) Beauv.
エノコログサ	いね科	一年草	在来	Setaria viridis (L.) Beauv.
ムラサキエノコロ	いね科	一年草	在来	Setaria viridis (L.) Beauv. subsp. minor T. Koyama f. misera Honda
セイバンモロコシ	いね科	多年草	帰化	Sorghum halepense (L.) Pers.
メリケンカルカヤ	いね科	多年草	帰化	Andropogon virginicus L.
カニツリグサ	いね科	多年草	在来	Trisetum bifidum (Thunb.) Ohwi
シュロ	やし科	常緑高木	在来	Trachycarpus fortunei (Hook.) H. Wendl.
セキショウ	しょうぶ科	多年草	在来	Acorus gramineus Soland
カラスビシャク	さといも科	多年草	在来	Pinellia ternata (Thunb.) Breit.
アオスゲ	かやつりぐさ科	多年草	在来	Carex breviculmis R. Br.
マスクサ	かやつりぐさ科	多年草	在来	Carex gibba Wahlenb.
ヒゴクサ	かやつりぐさ科	多年草	在来	Carex japonica Thunb.
オオ仆スゲ	かやつりぐさ科	多年草	在来	$Carex\ sachalinens is\ Fr.\ Schm.\ var. alterniflora\ (Franch.)\ Ohwi$
ヒメクグ	かやつりぐさ科	一年草	在来	Cyperus brevifolius (Rottb.) Hassk. var. leiolepis (Franch. et Savat.) T. Koyama
アゼガヤツリ	かやつりぐさ科	一年草	在来	Cyperus flavidus Retz.
コゴメガヤツリ	かやつりぐさ科	一年草	在来	Cyperus iria L.
カヤツリグサ	かやつりぐさ科	一年草	在来	Cyperus microiria Steud.
ヒデリコ	かやつりぐさ科	一年草	在来	Fimbristylis miliacea (L.) Vahl
シラン	らん科	多年草	RDB植栽	Bletilla striata (Thunb.) Reichb. fil.
シュンラン	らん科	多年草	在来	Cymbidium goeringii (Reichb. fil.) Reichb. fil.
コクラン	らん科	多年草	在来	Liparis nervosa (Thunb.) Lindl.
ネジバナ	らん科	多年草	在来	Spiranthes sinensis (Pers.) Ames var. amoena (M. Bieberson) Hara
ウスギムヨウラン	らん科	多年草	RDB在来	Lecanorchis kiusiana Tuyama

「YS - 11| 搭乗記

総務部総務課長補佐

伊藤邦司

ちょうど1年前この稿に投稿の機会をいただいたところでしたので、当分はそのようなことはないだろうと思っておりましたところ、12月のある日、事務局のSさんが、いつにも増して笑顔で突然私に向かって「YS-20」の搭乗体験について投稿してほしいと一枚の紙切れを渡されました。

私の愛する「YS-11」を「YS-20」とは、興味をお持ちでない方々にとってはただ単に数字の違いくらいにしか思わないのかと少々落胆し、消極的にその紙切れを受け取ったのでしたが、当の本人は、この1月の異動で他課の人となってしまいました。

しかし、うれしいことに私がこの「YS-11」に 搭乗したことをいち早く聞き付け、羨望の目差し で見られた自衛隊ファンがいます。附属病院に務 めるSさんです。Sさんは浜松基地の救難救助隊 にも知己がおられ、同基地の航空祭はもちろんの こと、他の基地で行われる各種イベントにも家族 で出かけるという自衛隊ファンです。その熱烈自 衛隊ファンである彼女から羨ましがられたことは 貴重な体験であった証拠なのかと少し気を取り直 しました。という訳でまたしても拙文を提出する ことに相成った次第。

さて、ご存知の方も多いと存じますが、「YS-11」は、戦後日本で開発された双発プロペラの旅客機。全長26.3メートル、翼幅32メートルで約1200メートルの短い滑走路で離着陸が可能で、1962年に初飛行して以来180機が製造され、海外にも輸出されました。「YS」とは、基礎設計を手がけた財団法人輸送機設計研究協会の「輸送」と「設計」の頭文字をとったもの、その設計者には、戦前に登場した海軍戦闘機「ゼロ戦」の設計者堀越二郎氏、陸軍戦闘機「ゼロ戦」の設計者堀越二郎氏、陸軍戦闘機「単」の設計者太田 稔氏、日大理工学部の木村秀政教授らがいました。機体もゼロ戦や隼のように非常に美しく、日本人の感性を感じさせるもので私は熱烈なファンでありました。

この名機が9月30日、鹿児島県の沖永良部から 鹿児島空港へのフライトを最後に日本の定期航空 路線から引退することとなり、新聞紙上をにぎわ せたことをご存知の方は多いと思います。私もこ の関連の記事をスクラップしながら一時代が終 わってしまった寂しさを感じずにはおれませんで した。と同時についにこの名機に乗るチャンスが なくなってしまった底知れぬ寂しさに襲われまし た。

ちょうどその時、航空自衛隊浜松基地で行われる航空祭の一貫として「YS-11」と大型輸送ヘリ「CH-47 J」の体験搭乗を募集していることを知りました。9月末で引退しているのにどうしてなのかと思いつつ、私は迷わず「YS-11」のみ搭乗希望と大きく記入し応募しました。

聞けば同機が引退した理由の一つは、航空法の 改正で民間航空機への衝突防止装置の設置が義務 付けされたためで、自衛隊機は除外対象、いまだ 現役とのことでありました。

応募がどれほどの競争率であったのかは知る由 もありませんが、積年の思いが通じたのか幸運に も搭乗が認められ写真のような搭乗券をいただく ことができました。



搭乗券

さ

搭乗日の10月28日は雲一つなく暑いくらいの 天候で私の搭乗は第1便の900、乗員は、男女ほぼ 半々の約50名。受付けを済ませ18番の認識票を 首に架けるよう指示があり、しつらえのテントの イスに座りフライトを待ったが、この時間の長い こと、名機とはいえ41年間も空を飛んでいるのだ から金属疲労もかなりのものだろう、いつ落ちて も不思議はない、などと有らぬ事を考えるのは人 の常、しかしこれだけ女性が乗るのだから落ちん こない(なるほど!)と妙な確信を得て待つこと 30分、南上空からターボジェットの甲高い音が耳 に入ってきました。次第に大きくなってくる音に いつしか少年のように胸の高鳴りを禁じ得ません でした。落ちるなんて思いはどこへやら、憧れの 名機搭乗が今正に実現されるうれしさでいっぱい でした。

今回搭乗させていただいた機は航空自衛隊美保 基地(鳥取県)の所属。フライトはまず天竜川河

口に向かい、遠州灘を西進し、浜名湖をかすめて 北上する約20分の空の旅でした。高度は300メー トル、高度が低いせいなのか思ったより機体は揺 れた。折角の機会だからと欲張ってビデオカメラ の撮影もしていたので果たしてどの辺を通過して いるのか、自分の家も探したいと思っていたが さっぱり判らずじまい、しかし今やお金を出して も乗ることのできない"日本の翼"で空の旅を満 喫できたことは、思いがけない体験でした。

興奮が冷め遺らず次のフライトを見送ったその 足で、奇しくもその日に開催されたねんりんピッ ク静岡2006の開会式、その後に行われるあの往年 のメキシコ五輪銅メダリスト杉山、鎌本、富沢選 手らで編成されたチームを静岡選抜が迎え撃つビ ンテージサッカーマッチ観戦のため会場の静岡ス タジアムエコパへ向かいました。私にとり感動を もらった1目でした。



搭乗を終え機体を前に記念写真



給油のため翼を休める YS-11

海外渡航記

インドへの旅、そして インドからの旅

総合人間科学講座(倫理学)教授

森下直貴

ニューデリーの街全体を包み込む森、あちこちの建築現場と労働者のスラム、辺り一面をすっぽりおおう靄、どこにいても鼻を突く何かを焼いたような臭い、薄赤茶けた色のレンガ、どの建物にも必ずいる守衛、人そして人、喧噪、スズキの軽自動車、ひっきりなしに鳴らされるクラクション。崩れ落ちそうな土壁とバラックが連なる貧民コロニー、汚水溜り、子供たちの歓声、裸足とサンダル、狭く暗い家の中の疲れた表情、青年の刺すような目、前を行く牛の背中。五つ星ホテルのムガール王朝風エントランスとゴージャスなラウンジ、ピアノとクラリネットの生演奏や極上のコーヒー、サリーの優雅さ、ヒンドゥー語を話すクレョンしんちゃん、ベジタリアン、突然の停電。

混雑する国内線待合室、美男美女揃いのフライ トアテンダント、中世さながらの汚い町並み、路 傍にあふれるゴミまたゴミ、ゴミを漁るおとなし い犬、猛スピードで追い越していくタタ製バスの 振動、驢馬の荷車・牛・黙々と歩く人々、ランプ の灯り、田園の彼方に沈む夕陽とヤシの木のシル エット、ガンジス川縁に立つ電線のない鉄塔、レ ンガを焼く幾筋もの煙、チャイの甘さ。ジャガイ モ入り野菜カレーの美味しさ、土の家、唱和する 子供たちの声、鉛筆を贈呈されたとき見せた村長 の思惑外れの表情、靴にこびり付いた牛糞混じり の土、ジープの揺れと土埃、照りつける太陽の暑 さ、辟易するほどに俗物的な国際的観光地、しつ こく纏わりつく物売り、客を争う驢馬車の押し合 い、追いかけてくるせむしの乞食少年、夕暮れに 沈むナーランダ大学構跡。

華やかな結婚披露宴に集う着飾った男女、パト

ナ駅構内で寝ている「訳の分かんない」塊の群れ、 目病み・皮膚病み・上半身だけの異形の乞食たち、 清掃箒をもつ少年の不明瞭な声と懇願する顔、夜 行列車の振動と冷房の寒さ・騒音、遥かに広がる 農耕地で黙々と働く人々の黒い影。赤ん坊を抱い て哀願する女の態とらしい低い声、大相撲の白鵬 そっくりの現地ガイド、闇に消えた白い像、コロニアル調ホテルの部屋の石炭暖炉の熱さ、ヒマラヤの夜に冴える上弦の月、繁華街の身動きできないほどの雑踏、トイレの手桶、ベンガルタイガーの追力ある唸り声(アーウー)、握手したチベット系老人の笑顔とごつい手、朝日に白く輝く世界三位の高峰カンチェンジュンガ、延々と広がる茶のプランテーション、ベンガルの熱風。

路上で寝ている人々、肉市場の屠殺光景と血の臭気、犠牲の山羊の血がこびりついた断頭台に口づけする人々と掛けられたハイビスカスの花輪、入り口に掲げられた「愛の言葉」と周囲から隔絶された清潔な空間の異様さや世界中からやって来たボランティア・修道女のきびきびと働く姿、共産党の州政府、息を止めてしか通れないコロニーの狭い通路、虚ろな目をしたアル中の男、ゴミが棄てられた広場で排便をする幼女、ホテルの驚くほど豪華な食事と着飾った家族連れとクリスマスのデコレーション、ハンカチで鼻を覆うほどの排気ガス、動物園入場のために並ぶ人々の長蛇の列、学んだフレーズ:"You are not required"。

*

あれから二ヶ月余が過ぎた。今なお頭の片隅にこびりついて離れない旅の印象を、昨年の12月17日から26日まで、時の流れに沿って思い起こすままに挙げるなら上記のようになる。帰国後の日本でもテレビでインド特集を放映していた。驚異的な経済発展を遂げるインド(1991年まで社会主義的な閉鎖経済体制にあり、初等教育や医療は現在でもほぼ無料であるが、治験の杜撰さなど、それゆえの問題も抱えている)への関心は高まってい

記

る。私の場合はもちろん、広大で懐の深いインドのごく一部、つまりインド西北部の首都ニューデリーとその周辺、東北部の(古代の一時期繁栄を誇ったマガダ国に重なる)ビハール州の三角地帯、それにコルコタ(カルカッタ)や避暑地ダージリンを擁する西ベンガル州の、しかもその表面を擦るだけの旅ではあった。それでも映像と実際の体感との違いは大きい。

*

今回の旅の目的の一つは、インドのカースト (正確にはジャーティ)制度の実態の視察である。 具体的には、上述した州の各地域に点在するダ リット(被差別民衆のこと。カースト外のいわゆ る不可触賤民、行政用語では指定カーストSCであ り、ガンジーによる呼び名では神の子=ハリジャ ンともいう)のコロニーや村を7カ所めぐり、暮 しぶりや教育や医療などについてインタヴューし、 差別の実態を感得するとともに、交流を深めるも のだった。それに関連して、インド・アジア人権 センター会長のバグワンダス氏との会談、ダリッ ト研究所訪問、学術研究基金理事長(ダリット出 身のネルー大学教授)との懇談が組まれ、さらに 比較の意味で、近郊の都市グルガオン(躍動する インド経済と新興中産階級を象徴する地区)の ショッピングセンター視察も加えられた。

もとより、そのような視察は一般の観光旅行とは違って、現地との事前交渉が必要であり、インドの調査が専門でもない私一人の力で出来るはずはない。(作家の故野間宏氏や哲学者の沖浦和光氏にゆかりのある)全国大学同和教育研究協議会という組織が毎年企画し、今回で6回目を数える「インド・カースト制度の現地研修の旅」があることを、宗教哲学専門の山下秀智静大教授から紹介されて知り、これに運良く同行させてもらったからこそ可能になったものである。世話をいただいた団長ほかの方々の御好意には感謝している。

ただし、私自身の内発的な目的は別のところにあった。今回の企画には差別と深くかかわる宗教との接触が組み込んであり、仏教の聖地を訪れることになっていた。ガンジーの盟友だった初代の法務大臣アンベドカルに指導されたダリットの集

団が、差別を否定する仏教に大挙して改宗したことは有名である。「社会規範の生成論理の解明」をライフワークにしている関係上、宗教現象は私にとって重要な研究対象の一つである。それゆえ、仏教遺跡(釈迦の最終説法地である霊鷲山、かつて玄奘がはるばる唐から訪れたナーランダ大学跡、釈迦がその根元で悟りを開いた菩提樹とこれを背にしてそびえ立つ大塔・大菩提寺)や、コルコタにあるマザーテレサ関連の施設、それと隣接するヒンドゥー教の有名なカーリー寺院を含めて、宗教のデパートといわれるインドの宗教風土にじかに触れる今回の企画は、逸することなどできようはずもない機会であった。

*

個人旅行ばかりしてきた私には珍しいことだが、今回の旅にはほとんど予備知識・事前勉強なしに臨んだ。たしかに、後期授業の準備にずっと追われ、出発の2時間前まで論文を執筆し、ようやく完成させて学会事務局に送信した後、慌てて旅支度をし、12月16日夕方、新幹線に飛び乗って前泊するホテルへ向け出発したから、勉強する余裕などなかったのは事実である。しかしそれ以上に、書物の知識は大事であるにせよ、職業柄からともすれば観念過剰になり勝ちな私にとって、あえて白紙のまま体験することを大切にしたいという気持ちが強かった。また、他人に任せるだけの団体旅行の気楽さもあったし、多忙を極める日常から脱出して一人になる時間に浸ることを心中密かに期待してもいた。

ところが、実際の旅は予想をはるかに超えて、 とんでもないほどの強行スケジュールに追い立て られる毎日であった。広大で奥深いインドのごく 一部ではあるが、専用バス・二回の国内フライト 便・夜行列車・ジープに乗って、それらの間をひ たすら移動する我慢と忍耐の10日間。19日の早 朝、記録を取ろうと早起きして寝不足のまま、休 む間もなく暑さとバス最後部座席の振動にやられ てしまい、途中で頭痛と下痢気味になりはしたが、 それを除けば、変化に弱いはずの私がほぼ平常に 近い体調を維持できたことは奇跡に近い。途中で ダウンした人も何人かいた。よくぞ無事に戻って

記

こられたものだと、今でも信じられないくらいである。

*

インドを旅して考えたことは数限りない。バイブル版ノートは40頁ほどにもなる。語りたいことや印象深いエピソードはそれこそ山ほどあるが、残念ながらここでは紙幅の関係上、いくつかのコントラストを挙げるに留めたい。

例えば、最高級ホテルのラウンジで生演奏を聴 きつつ、独り極上コーヒーを飲みながら、その目 に訪れたダリットの貧民窟の光景を思い浮かべて は、インド社会の差別の底知れなさにショックを 受けている日本人観光客の自分。首都ニューデ リーやグルガオンと (インド29州のうちでも賄賂 政治のせいで最も遅れた) ビハール州との落差 (視察した森前首相一行がその貧しさに度肝を抜か れ、援助を申し入れた話は有名)。同じダリットの 地区でも都市のコロニー (掃き溜め貧民窟) と農 村(どこか牧歌的な風景)との違い。古代のマガ ダ国や初期仏教の繁栄ぶりと現代の俗物化した仏 教観光地との懸隔。血塗られた原初宗教の姿を留 めるカーリー寺院とは対照的に清潔で「愛」に満 ちたマザーテレサゆかりの「終焉の家」。イギリス 植民地支配の影響がいまなお色濃く残るコルコタ (1911年まで植民地経営の中枢)や東ヒマラヤ山 麓標高2000mの避暑地ダージリン(デリーの人と コルコタの人では話が通じないほどの多言語社会 にとっての英語と、広大な空間を結びつける鉄道 とは、コロニアル支配の産物であると同時に贈物 でもあった)。資本主義経済の浸透による中世以来 のカースト制度(ダリットだけでも800もの ジャーティに分かれ、清掃ジャーティを最下層に すべてが序列化されている)の崩れと新たな格差 形成への動き。指定カースト優遇政策(いわゆる アファーマティブ政策)の虚実(25%のシュード ラカーストにも拡大するという選挙目当ての公約、 25%のダリットの下層には及ばない恩恵)。プラト ンの『国家』とヒンドゥー教の『マヌ法典』。

あるいは、トイレの処理法に関して紙で拭う西 洋流に比べてはるかに自然で清潔なインド流(左 手を用いて手桶の水で洗い流す)とこれら両者を統一した我が日本のシャワートイレ。線路から這い上がって来た清掃少年の物乞いをきっかけに、夜行列車を待つプラットホームで突如巻き起こった援助論争(一生面倒を見る気がないのであれば、10ルピー=約30円でも渡すべきではないと主張するインド人ガイド。それが正論だと分かりつつも、また乞食組織の親方に稼ぎの大半をピンハネされることになるにせよ、どうやってもその少年の運命が変わらないのであれば、その夜の寝床で小さくも幸せな夢を見る権利ぐらいは彼にあるだろうと呟く日本人観光客。ちなみに、乞食はダリットより上のシュードラカーストのジャーティとか)。

*

帰りのフライトでは、同行した人たちと宗教や 仏教について、自由と必然と幸福について延々と 議論をした。帰国後は書物や映画やテレビ番組を 通じて勉強し、正月はインド漬けの日々となった (一例として、学生時代に岩波ホールで観たサタ ジット・レイ監督の「大地の歌」ほかの三部作を 30数年ぶりに鑑賞するも、あの頃の感激と違って そのセンチメンタリズムに辟易したのは、年を 取ったせいだけであろうか)。勉強は今も断続的に 続いている(ルイ・デュモンの名著『ホモ・ヒエ ラルキクス』は入手済み、未訳だがリジー・コリ ンガムの『帝国の身体』も面白そうだ)。 欧米と日 本と東アジアの枠組の中にインドが入って来て、 私の思考は確実に広がったし、宗教の本質につい ても再確認できた。バラナシ (ベナレス) やムン バイ (ボンベイ) にも行ってみたい気はある。そ うそう、朝食にはミルクティーが欠かせなくなっ ている。

映画「インドへの旅」の主人公は、婚約者のいる植民地インドに赴き、そこで自分の内部の抑圧された心に気づいて、新たな人生を歩むことになったが、インドへの旅は私にとってもじつに収穫の多いものであった。その影響は今後じわじわと出てくることだろう。私の「インドからの旅」は今ようやく始まったばかりである。

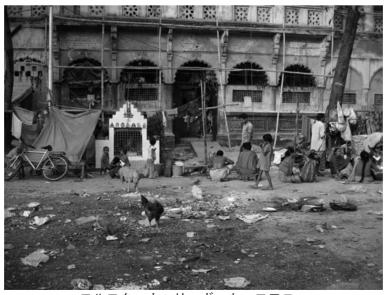
記



村の子供たち



カンチェンジュンガを背に



コルコタ・カーリーガート・コロニー

アメリカ

健康社会医学講座助手

村 田 千代栄

今回のアメリカ出張の目的は、研究成果の発表と受賞でした。受賞対象となった研究は、日本の地域高齢者において、所得・教育年数の低さがうつの有病率の高さと関連していることを報告したものです。うつは、若年層のみならず高齢層においても、自殺だけでなく、各種疾患の発症や予後との関連が指摘され、公衆衛生上大きな問題となっています。欧米での先行研究では、うつが所得や教育年数の低い人々の間に高率でみられることが確認されていますが、アジア諸国では、その手の研究自体が少ないこともあり、関連は明確ではありませんでした。



授賞式

アメリカ公衆衛生学会は、1872年に設立された 世界最大規模の学術団体で、アメリカ国内外の会 員はあわせて50,000名以上で、2006年9月現在の 日本人正会員数は106人です。会員は、医師、看 護師、研究者、行政関係者、教師、その他と多岐 に渡り、発表内容も、疾患予防のための介入研究 から、戦争や社会システムの変容が健康に与える 影響にいたるまで、幅広い立場から人間の健康に ついて討論する場となっていました。日本公衆衛 生学会に比べ、政策提言や地域活動などに学会自 体がより積極的に関わっている印象を受けました。 毎年開かれる総会には、世界各国から毎回1万人 以上が参加するそうです。

学会の内容自体も興味深かったのですが、開催

地のボストンも魅力的な町でした。ボストンはア メリカの独立に関わりが深く、アメリカ発祥の地 として有名です。私たちの滞在したオムニパー カーハウスホテルは、ケネディ大統領が記者会見 を行なったプレスルームがそのまま残り、歴史的 建造物となっていました。しかし、なかでも忘れ られないのは、ロブスターの味です。寒いせいか、 身がぷりぷり引き締まりとてもおいしかったです。 11月の始めでしたが、温度は日本の真冬と同じ で、夜は零度近かったと思います。日本の晩秋の 感覚で行ったため、あまりの寒さに同行の先生と ショッピングセンターに走ってしまいました。目 的は「暖かい服」です。幸い二人ともバーゲンで 格安に目的の物をみつけることができました。渡 航先の気候はしっかり把握していかないといけな いことを痛感しました。

しかし、そのような寒さの中でもホームレスの



ロブスターを前に同行の中出先生と

姿があり、心が痛みました。健康指標の一つである平均寿命一つをとっても、アメリカでは貧しい 黒人と裕福な白人の平均寿命の差が20年にもなるといわれます。テロは貧困から生まれるとも言われますが、テロとの戦い以前に、貧富の差や、健康の格差など解決努力すべき問題は数多くあるように思います。アメリカの空港でのセキュリティチェックは相変わらず厳しく、あまり愉快な思いをしない旅行者もいるようです。日本でも、貧富の差が広がっているといわれていますが、アメリカを日本の未来像にはしたくないと思いました。

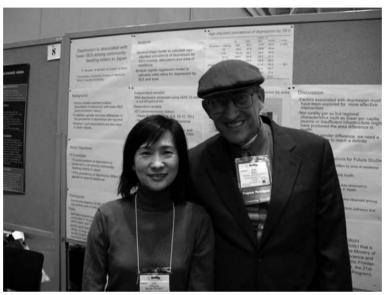
最後になりますが、今年の3月には、今回発表 されたデータをもとに高齢者の健康について学際

海 外 渡 航

記

的な立場から検討した本「検証健康格差社会」が、 医学書院より出版される予定です。私も、高齢者 の睡眠障害について1章担当させていただきまし

た。書店で見かけられたらぜひお手にとってくだ さると幸いです。



UCLA 公衆衛生大学院時代の恩師 D. モリスキー教授と

卒業生だより。

<最近よく思うこと>

医学科 9 期生 (昭和 63 年 3 月卒業) 中 村 直 也

今年は年男になる。医師として20年目を迎え る。早いものである。卒後すぐ150床規模の都内 中小病院で研修を始め、同病院の常勤医になった。 私の目標は開業医になることだったので、どんな 場面でも困惑せぬよう積極的に症例を重ねてきた。 入院患者を30人以上、1人で受け持っていた時期 もある。その頃は、死んだ夢でよく目覚めたもの だ。過労死レベルの働きは今日も続く。副院長、診 療部長、病棟医長、外来医長を兼任する。週1当 直にも入る。さらに透析患者80人の主治医を勤め る。外来患者は何百人いるのか定かでない。透析 患者と合わせても千人はいないと信じたい。ある 時は、医学の恩恵に心躍らせ、またある時は、医 療の限界を覚え憤る。それが私という臨床医の姿 である。医療にどっぷり漬かって生きる決心が付 かないまま、45歳で開業は諦めた。開業医とは、 その地に骨を埋められる医師と思ったからだ。そ れは医療に一生を捧げることでもある。

人の命は重いと誰もが思う。では、どれぐらい 重いか。本当に地球より重いのか。そんな重い命 を何人(あるいは何百人)も背負った主治医とは 一体何者か。われわれ臨床医の命だけは使い捨て か。人命を預かる点では医師より責任が重いと、 よく引き合いに出されるのは旅客機のパイロット である。彼らは離着陸の度、どんな思いを馳せる のか。重い命を背負うコツでもあるのだろうか。



ところで、最近よく人に言われることがある。 曰く、先生の顔を見ると安心すると。月に1度の 外来患者なら頷けるが、頻繁に顔を合わせる透析 患者や入院患者に言われると、少し気恥ずかしい。 ましてやスタッフに言われると、やや困惑する。 安心とは、何か。それは取りも直さず、不安のな いことだ。不安とは何か。私は、死への恐怖が根 源だと考える。ついでに、最近よく思うことがあ る。それは、たった今死んでも構わないと。私の 眼前に突然死神が現れたとしても、うろたえない 確信がある。そう言う坊主や医者ほど往生際が悪 い、と思われるだろう。しかし何故か、その思い は年々強くなるばかりだ。

自己の死をも忌み嫌わぬ態度や心構え、とでも言おうか。それが重い命を背負うコツだと、私は密かに思っている。そして実は、命はお互いに予想以上にしぶとい。そもそも飛行機は車より安全なのだ。何をか恐れん。さらに患者に感謝されれば、私の命はますます軽く躍動を始める。臨床医とは、恐らく人の中に骨を埋められる医師のことである。ならば続けて行けるかも知れない。医療に一生を捧げる決心の今だ付かぬこの私でも。そんな思いの今日この頃である。皆様の研鑽ならびにご活躍を祈りたい。

熊本に暮らして

医学科9期生(昭和63年3月卒業)

小 林 麻 子

冬の晴れた朝、熊本市の自宅を出て勤務先に車を走らせると前方には真っ白な雪を頂く阿蘇の外輪山が浮かび上がってきます。私の勤務先は熊本市郊外、阿蘇地方に近い300床の中規模病院です。広々としたリハビリテーションフロアからの雄大な阿蘇の景色は私のお気に入りです。

私は卒業後、浜松医大の第一内科に入局して神経内科を専攻し、その後は東京の研究施設及び帝京大学神経内科で勉強をさせていただきました。 当時は実験(末梢神経・筋疾患)や、診療、医学教育のお手伝いなどに奔走していました。振り返ってみれば母校を離れた東京での数年間は、まさにあらゆる面で修行また修行の日々であったと思います。その後平成14年に結婚を機に帝京大学を辞し、夫の勤務先である熊本に転居いたしました。以来4年間、この地域の神経内科医として臨床に携わっております。

患者様の多くは県北部の菊池・阿蘇地域の方々 です。菊池とは歴史上名高い豪族「菊池一族」の 本拠地として知られる地域(4市町村人口15万 人)です。阿蘇とは外輪山周辺およびカルデラ内 部を含む地域(7市町村人口7万人)です。地元 の熊本大学には歴史と実績を有する立派な神経内 科があるものの、広大な熊本県内にあまねく派遣 するには専門医は未だ不足気味。阿蘇地域に至っ ては常勤の神経内科専門医は皆無であり、不自由 な体で遠く熊本市内の病院まで足を運ぶ患者様も 多いようです。当院でも常勤の神経内科医は私が 初めてという状況でした。山奥から外来にみえる 方が「市内はたいが遠いけん、通われんですたい (市内はとても遠いので、通えないのです)。」と微 笑まれるのを見ると、自分の責任の重さを痛感い たします。

阿蘇・菊池では古く(石器時代)からヒトが生活を営んだ歴史があり、由緒ある寺社、珍しい風



習や祭事なども多いところです。この地の里人、特に阿蘇の方々は故郷を誇りに思い、多くの方は少しでも阿蘇の傍で生活・療養したいと希望されます。しかし一方では、地域の濃密な人間関係に適応しきれず心を病んでいく方、周囲の目を恐れて現代医学の診断を受け入れようとしない御家族などに遭遇することもあります。パーキンソン病では10年近くも治療を受けずに放置され、寝たきりになって初診で運ばれてくる例もあるのです。こうした問題に対応するためにも、私自身がこの周辺地域の特徴をよく理解し、地元の開業医の先生と連携を深めていかなければなりません。

業務としては通常の外来・入院患者の診療に加え、脳ドック、在宅難病患者の支援などの仕事を任されております。個人的には育児のため時間的制限がありますが、他科の先生方や熊大からの派遣ドクターの助けも借りながら、これまでなんとか神経内科医としての役割を果して参りました。思えば4年前、見知らぬ土地で仕事を始めるに当たっては、不安も多く試行錯誤もありました。が、今は多くの方々に助けられ、恵まれた環境で仕事をさせていただいていると思います。

最近は学問から遠く離れてしまいましたが、新しい企画を時々試みています。昨年は「パーキンソン病患者様のためのフラワーアレンジメント教室」を院内で開催し、好評を得ました。例え体の機能が一部失われても、日々を楽しく生きる事は大切です。今後も専門医としての勉強を続けるとともに、病気をもつ方々が生活の中に喜びを見出せるよう積極的に援助していきたいと考えています。

昭和63年に卒業して

医学科9期生(昭和63年3月卒業)

服部智司

昭和63年に卒業して、出身地にもどり、脳外科 医のみちを選んでから、18年。脳外科医の挫折と 悲哀をくぐりぬけて、治せる病気を丁寧に治すこ とを心がけるようになった。手術の醍醐味も知っ て、開頭クリッピングとコイル塞栓術を使いわけ、 また別の患者には、"救命目的の手術"が何を意味 するかをお話しし、静かな看取りをすすめる。田 舎脳外科医となって、満足していた。

市中病院勤務医はやはり夜中の呼び出しなどで、体力気力を消耗する。「当直後の疲れがひどく出るようになったな。」と感じていた。ある夜、動悸と息切れで入院となった。

気持ちの平静を保つために、読書に勤しむことになった。「大河の一滴」「運命の足音」「夜と霧」「高瀬舟」「脳死・臓器移植の本当の話」。心を落ちつかせるつもりの読書が怪しげな方向にいく。

あれこれあったが、快方に向かい、「日本の医療に未来はあるか―間違いだらけの医療制度改革」「拒否できない日本」「国富消尽―対米追従のはてに」「騙すアメリカ騙される日本」「ご臨終メディアー質問しないマスコミと一人で考えない日本人」「単独発言―私はブッシュの敵である」「永遠の不服従のために」「メディア・コントロール―正義なき民主主義と国際社会」「風の男 白洲次郎」「国家の品格」「若き数学者のアメリカ」「遥かなるケンブリッジー―数学者のイギリス」と読み進んだ。心を落ち着かせるための読書が、憤りになっていったのは、世の中のせいでもあろう。

「グローバル化」「アウトソーシング」「構造改革」「官から民へ」 などの軽薄な標語に踊らされ、いまなおそうである。藤原正彦氏が、昨今の市場原理主義を批判して、「論理より情緒」と書いている。論理的な説得にこそ、トリックが隠されていると、直感が危険を察知している。多くのひとがそれに賛同するだろう。ところが、である。

イラン戦争が始まった年に、酒の席で、「どうも、最近のアメリカは、危ないですね。」と言うと、恩師ともいうべき脳外科医は、「否、アメリカはいい国だよ。」と。昔の留学時代を思い出すのか、付き合いのあるアメリカの友人を思い浮かべるのか、名のある先生のお言葉には、唖然とした。将来、決定権を持ちそうな人間を若いうちにもてなし飼いならす戦略は十分有効である、ということだ。これもある意味で、「論理より情」か。

コントロールされているメディアでさえ、行き 過ぎた市場原理主義や対米追従、経済財政諮問 (私的?)会議を批判するところまではきたが、す でに、レールは敷かれている。どさくさ紛れに利 益をむさぼる卑賤な人びとや、'医療にも効率化' とうそぶくコンサルタントには、逃散か、ぶらか しと居座りでの対抗か。

「呼吸器はずし」なる行為が問題となった。「medical futility」とか「euthanasia」という理解の仕方も、「これ以上かわいそうだから」「惻隠の情」「察する」という言葉もあろう。精神的苦痛と経済的圧迫とをひっくるめた国語を、なぜいまさら横文字か、腹立たしくもある。

言葉がやっと通じる程度の混沌とした異国のルールを細切れに輸入して、取扱説明書を和訳するのと同じ調子で、「マニュアル」と「ガイドライン」で医療と生き死にを取り扱うことは、どうかご勘弁を、と思う今日この頃である。私の場合、辞世の句(事前指示書)は、「挿管無用、心マ不要」である。



編集後記

ニュースレターの今年度第2号をお届けいたします。玉稿をおよせいただきました方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

新任職員の方からは新しい職場での意気込みが感じられました。また、さろんでは身近な大学構内でも絶滅危惧植物や特定外来物指定生物が発見できるという環境の変化がよくわかりました。そして、学会参加、サークル紹介、海外渡航とさまざまな立場からご活躍の様子をいただきました。総務人事課長には、4月(正式には5月)に開所する医大保育所「きらり」の準備段階から設立までの経過や施設紹介をいただき、これまでのご苦労が伝わってきました。これは乳幼児を持つ医療スタッフにとって明るいニュースです。「きらり」、この言葉には何か希望や期待、わくわくするといったプラスの感情が湧いてくるように思います。これからの若い世代のスタッフが利用することで、出産や育児のために各人のキャリアが途絶えることなく、継続して自己実現を果たすとともに本学の発展が推進されることを願ってやみません。

ニュースレター編集委員 看護学科 地域看護学講座 巽 あさみ

浜松医科大学ニュースレター編集部会編集 〒431−3192 浜松市東区半田山一丁目20番1号 http://www.hama-med.ac.jp